

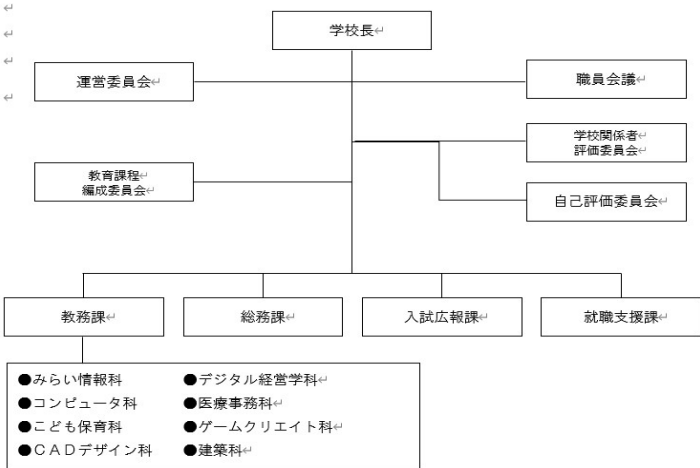
職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
静岡産業技術専門学校		昭和51年3月30日		松本 文晴		〒 420-8537 (住所) 静岡県静岡市葵区宮前町110-11 (電話) 054-261-8222		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人静岡理工科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-8538 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 M20ビル13F (電話) 054-204-2490		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	コンピュータ科		平成7(1995)年度		平成29(2017)年度		
学科の目的		ITが広く浸透している現代の業務環境においては、情報システムを効率的に構築・運用する能力や、さまざまなビジネスシーンにおいてITを効果的に活用し業務を遂行する能力が求められています。本学科では、これらの能力を備え、実社会で即戦力として活躍できる人材の育成を目的としています。						
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)		2年間という限られた修業期間の中で、プログラミング、ネットワーク、データベース、セキュリティといった4大ITスキルを体系的かつバランスよく習得できるカリキュラムを編成しています。また、基本情報技術者試験やC言語・Javaプログラミング検定などの資格取得を目標とした学習指導を行い、実践力と専門性を備えたIT人材の育成を図っています。						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
		90 単位	62 単位	32 単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
80 人	130 人	6 人		5 %	0 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		:	49	人			
	■就職希望者数(D)		:	43	人			
	■就職者数(E)		:	43	人			
	■地元就職者数(F)		:	33	人			
	■就職率(E/D)		:	100	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		:	77	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		:	88	%			
	■進学者数		:	0	人			
	■その他		:					
	自己就職							
(令和 7 年度卒業生に関する令和 8 年 5 月 1 日時点の情報)								
■主な就職先、業界等								
(令和7年度卒業生)								
鈴与システムテクノロジー(株)、(株)静鉄情報センター、スター精密(株)、テレビ静岡システムクリエイツ(株)、(株)TOKAIホールディングス、(株)Newデイス、(株)朋電舎、明電システムソリューション(株)、矢崎総業(株)、遠鉄システムサービス(株)等								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無					
	※有の場合、例えば以下について任意記載							
当該学科のホームページURL	https://www.sangi.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		単位時間					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		単位時間					
	うち必修授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間					
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数		94 単位					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位					
	うち企業等と連携した演習の単位数		単位					
うち必修単位数		90 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)			2 人		
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)			2 人		
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)			0 人		
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)			0 人		
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)			0 人		
	計					4 人		
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					1 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
経済産業省の情報処理技術者試験や各種ベンダー試験の合格を目指す教育カリキュラム・教育時間を基に、IT業界において必要な技術、知識などの企業ニーズを取り入れるため教育課程編成委員会を開催し、企業等の関係者の意見を加え授業科目及び授業時間を編成している。また、教育内容は業界のニーズにマッチするよう常に見直しを行っている

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
情報処理業界及び企業ニーズを教育に反映させるため、学校組織内における教育課程編成委員会等の位置付けを「静岡産業技術専門学校 教育課程編成委員会の位置付けに係わる規則」として、またその運営を「静岡産業技術専門学校 教育課程編成委員会等の規則」として規定しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制としている。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
木田 徳彦	一般社団法人ソフトウェア協会	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	①
桜井 俊秀	株式会社富士フォーチュン	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	①
樽井 勉	株式会社スターランド	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	③
山本 直哉	株式会社第一システムプロダクト	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	③
松本 文晴	静岡産業技術専門学校 校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—
横山 純	静岡産業技術専門学校 教務課長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—
町野 教和	静岡産業技術専門学校 コンピュータ科学科長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—
梅原 萌子	静岡産業技術専門学校 コンピュータ科 教諭	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—
松川 麻美	静岡産業技術専門学校 コンピュータ科 教諭	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—
澤田 雄介	静岡産業技術専門学校 コンピュータ科 教諭	令和8年6月1日～令和9年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (年間の開催数及び開催時期) 年2回 (8月、3月) (開催日時(実績)) 第1回 令和7年8月29日 10:00～12:00 第2回 令和8年3月17日 10:00～12:00			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。 システム構築を行う為には業務知識も必要である。物やお金の流れなども考える授業ができると良いとの意見があり、本年度から企業連携授業にて業務システムの改善策を考え設計・開発する授業内容を追加した。今後の検討課題としては、専門学校生の学力低下、留學生の受入れなど学生に対する教え方、単位制の検討、社会人のリカレント教育などの問題点が定義された。専門職就職率、休退学率については評価頂いた。			
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 業務知識を踏まえたシステム構築力を育成するため、実際にシステム開発を手がけており、業務全体の流れや課題を理解した上で開発を行っている企業と連携する。学生が物やお金の流れなど業務の本質に触れながら、現場で求められる視点や考え方を実践的に学べるよう、業務プロセスに沿った課題解決型の授業展開を行う企業との連携を重視する。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 仮想企業の業務プロセスをもとに、人・物・金の流れに関わる業務アプリケーションの問題点を洗い出し、改善策を検討・設計してシステム仕様書を作成する。仕様書に基づいて開発とテストを行い、問題があれば仕様に立ち回り改善を重ねる。この実習に対し、実際に業務システム開発を行っている企業から講評や助言を受け、実務的な視点での学びを深めるとともに、成果物への評価に活用する。			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
Javaシステム開発演習	技術指導	既存システムに対し、改善案を検討し、システムを改修する演習を行う。演習を行う中で、情報共有スキルを習得する。システム改修に必要なドキュメントの作成などグループワークを行い、作成した資料のプレゼンテーションを行う。	一般社団法人ソフトウェア協会 株式会社インフォテック・サーブ
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「静岡産業技術専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識・技術の向上を図るための「教職員研修」を、企業等及び研修機関と連携し、育成対象の教育に対し組織的及び計画的に実施する。			
(2)研修等の実績			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	SEA/J CSBM基礎コース	連携企業等:	大塚商会
期間:	令和7年9月	対象:	科目担当
内容:	SEA/J CSBMの試験範囲に関するセキュリティの研修		
研修名:	ゼロからPythonで学ぶ人工知能と機械学習	連携企業等:	Udemy Business
期間:	令和7年8月	対象:	科目担当
内容:	新カリキュラムで始まる高度ITの授業にてAI・機械学習に関する授業を実施する為、基礎を学ぶ		
研修名:	C#とWindows FormsでカッコイイWindowsアプリを作ろう!	連携企業等:	Udemy Business
期間:	令和7年8月	対象:	科目担当
内容:	プログラム開発演習にてC#での開発を行う為、基礎を学ぶ		

②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：	令和7年度キックオフ教職員研修会	連携企業等：株式会社SNOPPI creation
期間：	令和7年4月30日	対象：全教職員
内容	チームとして新体制教職員間のコミュニケーション機会と学生指導や連携体制などの共有	
研修名：	令和7年度指導力向上マナー研修会	連携企業等：株式会社舎鐘
期間：	令和7年7月30日	対象：全教職員
内容	アサーティブコミュニケーションについて	
研修名：	スクールハラスメント研修	連携企業等：合同会社JEIT
期間：	令和8年2月27日	対象：全教職員
内容	学生との適切な距離感を保ちつつ、信頼関係を築くための教育的関わり方を学ぶ	
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名：	ノンプログラマーのためのPython	連携企業等：LinkedIn
期間：	令和9年3月	対象：科目担当
内容	Pythonの基礎を学び簡単なゲーム作成を体験する未経験者向け講座	
研修名：	「C#演習：ジェネリックコレクション」へようこそ	連携企業等：LinkedIn
期間：	令和9年3月	対象：科目担当
内容	C#のジェネリックコレクションについての解説、演習	
研修名：	基本情報技術者試験 データ構造とアルゴリズム	連携企業等：LinkedIn
期間：	令和9年3月	対象：科目担当
内容	データ構造とアルゴリズムを通してプログラミングを体系的に学習する	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：	生成AI「UserLocalChatAI」研修会	連携企業等：株式会社ユーザローカル
期間：	令和8年7月29日	対象：全教職員
内容	デジタルトランスフォーメーションを推進し、教育の質向上を図るAIツールの利用方法	
研修名：	次世代リーダー研修(学校・学科運営等)	連携企業等：マイナビ
期間：	令和8年8月21日・令和8年12月21日	対象：次世代リーダー
内容	次世代の管理職層を育成し、学校・学科運営を通して教員の質向上を目指す	
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係		
(1)学校関係者評価の基本方針		
本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、翌年度以降の目標設定や具体的取り組みに反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを基本方針に定め、2つの目的を掲げ実施している。		
①本校の教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表する。また、このことにより、本校の組織的・継続的な改善を図ること。		
②自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価により、適切な説明責任を果たすとともに、学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと学校との連携協力による特色ある学校づくりを進めること。		

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準(1) 教育理念、目標
(2)学校運営	基準(7) 学校運営
(3)教育活動	基準(2) 教育活動
(4)学修成果	基準(3) 教育成果
(5)学生支援	基準(4) 学生支援
(6)教育環境	基準(5) 教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準(6) 学生の募集と受け入れ
(8)財務	基準(7) 財務
(9)法令等の遵守	基準(7) 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準(8) 社会貢献
(11)国際交流	基準(8) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

施設設備の充実と学生・就職支援での決め細やかな対応を可能とする体制づくりについては現状の維持向上のための取り組みについて賛同をいただいている。教育、就職、生活支援等における質の維持・向上に努めた。シラバスについても、授業内で活用し学生への周知を促すようご意見をいただいたため、教育内容・指導方法向上に努めていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
塩谷 剛弘	(株)アイティエス	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	卒業生
白鳥 達也	鈴与システムテクノロジー(株)	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
蜂屋 雅基	(株)エイエイピー	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
松尾 卓明	(株)松尾鉄工所	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
清水 幸男	医療法人社団チームHSK	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
佐藤 弘卓	静岡県立科学技術高等学校	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	地域
柏木 博州	ライフプラザパートナーズ(株)	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	地域
近藤 直子	社会福祉法人静岡慈恵会 春日保育園	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
大塚 順平	(株)ORENDA WORLD	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
遠藤 正人	(株)杜建築設計事務所	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
伊沢 水木	静岡産業技術専門学校 後援会	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/03_20262025学校関係者評

公表時期: 令和8年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

産業構造や労働環境、さらには職業としての役割が大きく変化する中であって、本校がその教育理念、目的・目標、および教育活動や組織概要、特徴的な教育内容や学校が抱えている課題などを、社会に対して正確かつ積極的に伝えることが必要であり、そのために広く学校の情報を公開することを基本的な方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	設置コース、専門課程、就業年数、募集定員、学習時間数、入学者数、
(3)教職員	教職員数、組織図、研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備、学校行事、各種コンテスト、大学との連携プロジェクト、選択
(6)学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8)学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ(受入学科、入学選考方法、出願資格)
(11)その他	その他の教育活動(付帯授業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/01_2026学校情報.pdf

公表時期: 令和8年6月30日

授業科目等の概要

(工業専門課程 コンピュータ科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1		○		コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、展示会 見学や、遠足等を通して、見聞を広げ、協 調性を身につける。	1 通	60	1		○			○	○		
2		○		コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、展示会 見学、遠足等を通して、見聞を広げ、協調 性を身につける。	2 通	90	1		○			○	○		
3		○		キャリアサ ポートⅠ	将来社会人として活動していくために必要 な、自己分析および改善、対人能力など 様々なヒューマンスキルの学習や、履歴 書、自己PRの書き方などについて学ぶ。	1 通	30	1		○		○			○	
4		○		キャリアサ ポートⅡ	インターンシップや校内企業ガイダンスへ の参加、面接指導、就職活動の心構えや メールの使い方等希望する企業への内定獲 得のための実践的な就職活動対策を行う	1 通	30	1		○		○		○	○	
5	○			ビジネスアプ リケーション	パソコンのリテラシー教育として、ワープ ロ・表計算の基礎を学習する。様々なビジ ネスシーンで必要とされるビジネス文書を 作成できるスキルを養う。	1 前	30	1		○		○			○	
6	○			情報基礎理論	情報及び情報処理の基礎を学ぶ。基数変換 をはじめ、コンピュータの五大装置や文字 コードなど、コンピュータの基礎を学習す る。	1 前	30	2	○			○			○	
7	○			コンピュータ システム	コンピュータ利用者の立場に立ち、ソフト ウェアとハードウェア、インターネットに ついての基本的な概念など、情報科学の出 発点となる知識について学ぶ。	1 前	60	4	○			○		○		

8	○			システム開発 基礎	システムをとりまく環境、設計に関する基礎知識や最新知識を学ぶとともにシステム開発の手段、方法を学習する。	1 前	30	2	○			○		○		
9	○			IT戦略	情報戦略、情報マネジメント分野を学習する。経営分析および意思決定支援分野を中心に学習する。情報技術を学ぶものにとって必須な知識を学ぶ。	1 前	30	2	○			○			○	
10	○			アルゴリズム	フローチャートの作成やトレース、データ構造とアルゴリズムについて学ぶ。また、基本情報技術者試験で必要なアルゴリズム分野を学習する。	1 前	60	4	○			○			○	
11	○			システム設計 基礎	システム開発工程の方式設計～詳細設計の工程について学習する。グループワークによる設計書の作成及び修正作業を行う。	1 前	30	2	○			○			○	
12	○			データベース 基礎	関係データベースを中心に、データモデルとデータベースシステムの基本概念を理解し、データ設計やデータ操作、データ管理の原則と方法を学習する。	1 前	30	2	○			○		○		
13	○			ネットワーク 基礎	多様化、大容量化しているデータ通信に用いられる基礎的な技術内容を学習する。	1 前	30	1		○		○			○	
14	○			Web プログラ ム I	Web ページを構成する HTML と CSS 等を学習する。それぞれのコーディング手法を学び、web ページの技術的知識を習得する。	1 後	30	1		○		○			○	
15	○			Web プログラ ム II	Web アプリケーション制作を学習する。Web アプリケーション開発の基礎力を養う。	2 後	60	2		○		○			○	○
16	○			情報セキュリ ティ	インターネットの仕組みを理解し、様々な脅威に対する情報セキュリティを学習する。その他に、LAN、プロトコル、ネットワーク機器などについて理解する。	1 通	90	6	○			○		○		

17	○			プログラム言語Ⅰ	システム開発において、今後も根強い需要が見込まれるC言語の基礎文法を学習する。また、C言語プログラミング能力認定試験3級・2級の試験対策も行う。	1通	90	3		○		○		○			
18	○			プログラム言語Ⅱ	オブジェクト指向言語を学習する。プログラミングを中心に、文法や様々なクラスの使い方を学習していく。	2通	90	3		○		○				○	
19	○			プログラム言語Ⅲ	今後市場での拡大が期待されるPythonを学習する。基礎文法からライブラリ、フレームワークの活用など、言語の特徴や実践的な利用方法を学習する。	2前	60	2		○		○		○			
20	○			情報処理試験対策Ⅰ	国家試験である基本情報技術者試験の合格に向けた対策授業を行う。	1後	210	14	○			○				○	
21	○			情報処理試験対策Ⅱ	国家試験である基本情報技術者試験の合格に向けた対策授業を行う。	2前	150	10		○		○				○	
22	○			資格取得講座Ⅰ	各種試験対策を行う	1通	60	4	○			○				○	
23	○			資格取得講座Ⅱ	各種試験対策を行う	2前	30	2	○			○		○	○		
24	○			資格取得講座Ⅲ	各種試験対策を行う	2後	60	4	○			○				○	
25	○			ネットワーク応用	ネットワーク構築シミュレーションソフトを活用して、ネットワークの実践構築を行う。Cisco社が提供するCCNAの認定レベルに対応する授業を展開する。	1後	60	2		○		○				○	

26	○		プログラム開発演習	統合開発環境を用いて、プログラミング開発の演習を行う。開発環境の特徴を理解しながら学習する。	1後	30	1		○		○		○	
27	○		特別講義	業務システムの作成演習を行う。企業と連携し、より実践的で効率のよい開発スキルを養う。	2後	30	1		○		○		○	○
28	○		データベース応用	データベースをより実践的に理解するための学習を行う。演習を中心に学習する。	2通	60	2		○		○		○	
29	○		システム構築演習	オブジェクト指向型システム開発の上流工程（分析・設計）について演習を通して学ぶ。オブジェクト指向および上流工程手順、モデリング言語・開発言語なども学習する。	2前	60	2		○		○			○
30	○		サーバ構築演習	Webサーバ、メールサーバ、DNSサーバなど、インターネットを支えるTCP/IP系のサーバ構築を演習しながら、サーバ構築に必要な技術、LinuxOSなどの操作方法を学習する。	2通	60	2		○		○		○	
31	○		高度IT	最新技術の基礎知識を学習し、演習を行う。	2前	60	2		○		○		○	
32	○		卒業制作	2年間の学習成果をまとめるための総合的な研究を行う。各種開発ツールを使用してシステム・ソフトを制作し、研究レポートにまとめ、作品発表会を行う。	2後	210	7		○		○			○
合計					32	科目	2040 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： (1) 修業年限以上在籍し、必修科目の修得かつ校長が定める単位数以上を修得した者 (2) 査定日現在で学納金に未納がないこと		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修科目および選択科目		1 学期の授業期間	22 週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
静岡産業技術専門学校		昭和51年3月30日		松本 文晴		〒 420-8537 (住所) 静岡県静岡市葵区宮前町110-11 (電話) 054-261-8222		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人静岡理工科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-8538 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 M20ビル13F (電話) 054-204-2490		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度
工業	工業専門課程	みらい情報科				平成23(2011)年度		平成28(2016)年度
学科の目的		クラウドコンピューティングやIoT(Internet of Things)など、次々に新しい技術が登場する情報系分野において、幅広い視野と質の高い情報収集力を持ち、常に新しいことにチャレンジする技術者の育成を目的とする。						
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)		本校(静岡産業技術専門学校)に在籍しながら帝京大学を併修し、ベンダー資格やIT系国家資格を取得。グローバルに活躍できるITスペシャリストの育成を目指す。基本情報技術者、応用情報技術者、情報処理安全確保支援士、C言語検定、MOS Excel、Java Bronze、CGNA 中途退学率:0.0%(令和6年度)						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		単位時間	単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		154 単位		102 単位	122 単位	3 単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
100 人	166 人		1 人		1 %	0 %		
就職等の状況	■卒業者数(C)		25 人					
	■就職希望者数(D)		25 人					
	■就職者数(E)		25 人					
	■地元就職者数(F)		15 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		60 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	なし							
(令和 7 年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等		(令和7年度卒業生) (株)SBS情報システム、(株)NTTデータMHIシステムズ、静岡県警察本部、静岡ITソリューション(株)、鈴与システムテクノロジー(株)、(株)TOKAIコミュニケーションズ、三栄ハイテックス(株)、CTCシステムマネジメント(株)、富士工業(株)、スズキ(株)						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無					
	※有の場合、例えば以下について任意記載							
当該学科のホームページURL	https://www.sangi.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		単位時間					
	うち必修授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間					
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数		227 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		60 単位						
うち必修単位数		154 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		60 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				0 人	
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				2 人	
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人	
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				2 人	
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人	
	計						4 人	
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数						2 人	

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

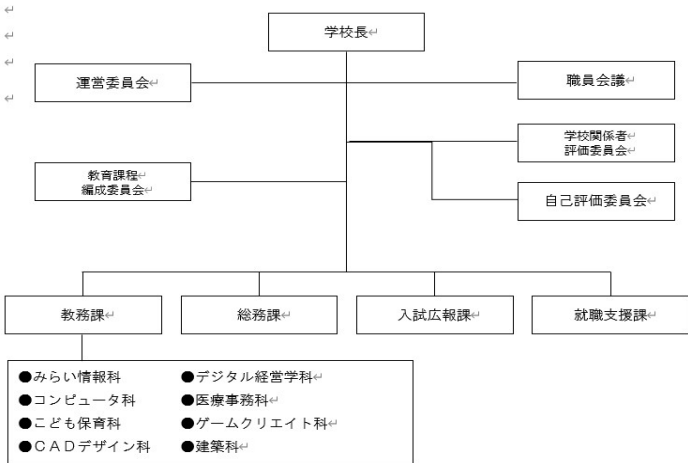
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

経済産業省の情報処理技術者試験や各種ベンダ試験の合格を目指す教育カリキュラム・教育時間を基に、情報処理産業界において必要な技術、知識などの企業ニーズを取り入れるため教育課程編成委員会を開催し、企業等の関係者の意見等を加え授業科目及び授業時間を編成している。また、教育内容は業界のニーズにマッチするよう常に見直し、カリキュラム及びシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

情報処理業界及び企業ニーズを教育に反映させるため、学校組織内における教育課程編成委員会等の位置付けを「静岡産業技術専門学校 教育課程編成委員会の位置付けに係わる規則」として、またその運営を「静岡産業技術専門学校 教育課程編成委員会等の規則」として規定しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制としている。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 理事	令和8年4月1日～令和9年3月 31日(1年)	①
土屋 浩一郎	鈴与システムテクノロジー株式会社 部長	令和8年4月1日～令和9年3月 31日(1年)	③
小澤 高伸	鈴与システムテクノロジー株式会社 部長	令和8年4月1日～令和9年3月 31日(1年)	③
小林 正	株式会社 アドローブ 代表取締役社長	令和8年4月1日～令和9年3月 31日(1年)	③
山本 直哉	株式会社第一システムプロダクト 代表取締役社長	令和8年4月1日～令和9年3月 31日(1年)	③
松本 文晴	静岡産業技術専門学校 校長	令和8年4月1日～令和9年3月 31日(1年)	—
横山 純	静岡産業技術専門学校 教務課長	令和8年4月1日～令和9年3月 31日(1年)	—
塩崎 雅基	静岡産業技術専門学校 教務課長補佐	令和8年4月1日～令和9年3月 31日(1年)	—
窪田 龍 吾	静岡産業技術専門学校 みらい情報科	令和8年4月1日～令和9年3月 31日(1年)	—
山本 香世子	静岡産業技術専門学校 みらい情報科	令和8年4月1日～令和9年3月 31日(1年)	—
岩越 文尚	静岡産業技術専門学校 みらい情報科	令和8年4月1日～令和9年3月 31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (11月、3月)
(開催日時(実績))
第1回 令和7年8月29日 13:00～15:00
第2回 令和8年3月17日 13:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
学科運営実績報告
本校分野科目についての提案
将来に向けて改正案の検討

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
学科育成目標の一つであるコンピュータプログラマ・システムエンジニアとしての基礎知識・基礎技術を修得するための実践的教育が可能な、当該企業に所属する方を講師として派遣し、校内において指導が可能な企業を選定している。また機密保持契約等により現場の情報を提供できない企業を除くことも方針に含まれる。
(2)実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
実践的教育が可能な、当該企業に所属する方より、現場において利用されている言語や端末を利用した実践的なシステム開発演習を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
課題制作演習	技術指導	システム開発を設計からテストまで実際に体験する	(株)オブジィ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
「静岡産業技術専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識・技術の向上を図るための「教職員研修」を、企業等及び研修機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。
(2)研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	U-demy	連携企業等:	U-demy
期間:	令和7年4月1日～令和8年3月31日	対象:	みらい情報科教員
内容	オンデマンド形式の講座		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	令和7年度キックオフ教職員研修会	連携企業等:	株式会社SNOPPI creation
期間:	令和7年4月30日	対象:	全教職員
内容	チームとして新体制教職員間のコミュニケーション機会と学生指導や連携体制などの共有		
研修名:	令和7年度指導力向上マナー研修会	連携企業等:	株式会社舎鐘
期間:	令和7年7月30日	対象:	全教職員
内容	アサーティブコミュニケーションについて		
研修名:	スクールハラスメント研修	連携企業等:	合同会社JEIT
期間:	令和8年2月27日	対象:	全教職員
内容	学生との適切な距離感を保ちつつ、信頼関係を築くための教育的関わり方を学ぶ		

(3)研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: U-demy	連携企業等: U-demy
期間: 令和8年8月1日～令和9年3月31日	対象: みらい情報科教員
内容: オンデマンド形式の講座	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 生成AI「UserLocalChatAI」研修会	連携企業等: 株式会社ユーザローカル
期間: 令和8年7月29日	対象: 全教職員
内容: デジタルトランスフォーメーションを推進し、教育の質向上を図るAIツールの利用方法	
研修名: 次世代リーダー研修(学校・学科運営等)	連携企業等: マイナビ
期間: 令和8年8月21日・令和8年12月21日	対象: 次世代リーダー
内容: 次世代の管理職層を育成し、学校・学科運営を通して教員の質向上を目指す	
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1)学校関係者評価の基本方針	
本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、翌年度以降の目標設定や具体的取り組みに反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを基本方針に定め、2つの目的を掲げ実施している。 ①本校の教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表する。また、このことにより、本校の組織的・継続的な改善を図ること。 ②自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価により、適切な説明責任を果たすとともに、学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと学校との連携協力による特色ある学校づくりを進めること。	
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準(1) 教育理念、目標
(2)学校運営	基準(7) 学校運営
(3)教育活動	基準(2) 教育活動
(4)学修成果	基準(3) 教育成果
(5)学生支援	基準(4) 学生支援
(6)教育環境	基準(5) 教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準(6) 学生の募集と受け入れ
(8)財務	基準(7) 財務
(9)法令等の遵守	基準(7) 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準(8) 社会貢献
(11)国際交流	基準(8) 国際交流
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3)学校関係者評価結果の活用状況	
施設設備の充実と学生・就職支援での決め細やかな対応を可能とする体制づくりについては現状の維持向上のための取り組みについて賛同をいただいている。教育、就職、生活支援等における質の維持・向上に努めた。シラバスについても、授業内で活用し学生への周知を促すようご意見をいただいたため、教育内容・指導方法向上に努めていく。	

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
塩谷 剛弘	(株)アイティエス	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	卒業生
白鳥 達也	鈴与システムテクノロジー(株)	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
蜂屋 雅基	(株)エイエイピー	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
松尾 卓明	(株)松尾鉄工所	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
清水 幸男	医療法人社団チームHSK	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
佐藤 弘卓	静岡県立科学技術高等学校	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	地域
柏木 博州	ライフプラザパートナーズ(株)	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	地域
近藤 直子	社会福祉法人静岡慈恵会 春日保育園	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
大塚 順平	(株)ORENDA WORLD	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
遠藤 正人	(株)杜建築設計事務所	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
伊沢 水木	静岡産業技術専門学校 後援会	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/03_20262025学校関係者評

公表時期: 令和8年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

産業構造や労働環境、さらには職業としての役割が大きく変化し続ける中において、本校がその教育理念、目的・目標、および教育活動や組織概要、特徴的な教育内容や学校が抱えている課題などを、社会に対して正確かつ積極的に伝えることが必要であり、そのために広く学校の情報を公開することを基本的な方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	設置コース、専門課程、就業年数、募集定員、学習時間数、入学者数、
(3)教職員	教職員数、組織図、研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備、学校行事、各種コンテスト、大学との連携プロジェクト、選抜
(6)学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8)学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ(受入学科、入学選考方法、出願資格)
(11)その他	その他の教育活動(付帯授業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/01_2026学校情報.pdf

公表時期: 令和8年6月30日

授業科目等の概要

(工業専門課程 みらい情報科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
5	○			心理学	個人が心理的に成長し、他者と主体的、生産的に結びつくための道しるべとして、パーソナリティ理論を紹介し、深く理解することを学ぶ。	1後	30	2	○			○			○
13	○			英語Ⅰ	英語力を総合的に向上させることを目標とする。語彙の増強、読解力の強化、英語の音声に慣れ親しむことなどを旨とする授業を行う。	1後	30	2	○			○			○
14	○			英語Ⅱ	英語Ⅰで学んだ英文法の知識を活かして、この授業では英文の読解を中心に学習する。比較的易しい英文から始める。	1後	30	2	○			○			○
17	○			英語 コミュニケーション	実践的なコミュニケーションを念頭において、英文を正しく組み立てられるようにすることを目標とする。	3前	30	2	○	○		○			○
18	○			海外研修	語学研修や見学を通し、コミュニケーションや各国の文化、社会事情を学ぶ。	4後	60	4		○			○		○
19	○			英会話	語学力の向上、現地におけるコミュニケーションの基礎を学ぶ。	4後	30	1		○			○		○
20	○			就職活動	社会人として必要な常識、礼儀作法などの基本的知識を学習し活用できるようにする。	3前	30	1		○			○	○	
21	○			インターン シップ	企業の実際の現場で研修を行う。机上の学習では体験できない企業の役割や業務の流れ、実践体験を通して学習する。	3通	60	2		○			○	○	
22	○			資格試験対策 講義Ⅰ	情報処理試験などの各種検定対策授業を行う。	1通	90	3	○	○		○		○	○

23	○		資格試験対策 講義Ⅱ	情報処理試験などの各種検定対策授業を行う。	1 通	120	4	○	○		○		○	○	
24	○		資格試験対策 講義Ⅲ	情報処理試験などの各種検定対策授業を行う。	2 通	120	4	○	○		○		○	○	
25	○		資格試験対策 講義Ⅳ	情報処理試験などの各種検定対策授業を行う。	2 通	120	4	○	○		○		○	○	
26	○		資格試験対策 講義Ⅴ	情報処理試験などの各種検定対策授業を行う。	3 通	120	4	○	○		○		○	○	
27	○		資格試験対策 講義Ⅵ	情報処理試験などの各種検定対策授業を行う。	3 通	120	4	○	○		○		○	○	
28	○		資格試験対策 講義Ⅶ	情報処理試験などの各種検定対策授業を行う。	4 通	120	4	○	○		○		○	○	
29	○		情報技術基礎	ハードウェア、ソフトウェア、情報システムについての基本概念、情報科学の出発点となる知識を学ぶ。	1 前	30	2	○			○		○		
30	○		情報科学演習 Ⅰ	アセンブリ言語によるプログラミングを通して、CPUの詳細な動作について学ぶ。	1 前	30	2	○	○		○		○		
31	○		情報科学演習 Ⅱ	画像処理やCGを描画するプログラムを作成し、画像を扱うソフトウェアを用いて画像処理や画像の作成を目指す。	2 後	30	2	○	○		○		○		
32	○		情報科学演習 Ⅲ	TCP/IPおよびネットワークについての理解を深め、各種ネットワークサーバを駆逐できる力を身に着ける。	2 後	30	2	○	○		○		○		
33	○		情報科学演習 Ⅳ	情報システムのプロセスを理解し、情報システムのモデリングをどのように行うか理解し、モデリングの成果をまとめることを目標とする。	2 後	30	2	○	○		○		○		
34	○		コンピュータ 数学Ⅰ	工学で求められる基本的な数学について学ぶ。	1 後	60	4	○			○		○		

35	○		コンピュータ 数学Ⅱ	線形代数、幾何学、離散数学の基礎を学ぶ。	2 前	60	4	○				○		○		
36	○		コンピュータ 数学Ⅲ	情報工学を学ぶ学生に必要な微積分及び、それを利用した応用数学を学習する。計算能力を高め、事象を数学的に考察する能力を培うことを目標とする。	3 通	60	4	○				○		○		
37	○		ネットワーク 基礎	多様化、大容量化しているデータの通信に用いられる基礎的な技術内容を習得する。	1 前	30	2	○				○		○		
38	○		データベース 基礎	扱うデータの量や質が多様化、複雑化、大規模化してきているため、このようなデータを蓄積、管理し、効率的に利用するための基本概念を学習する。	1 前	30	2	○				○		○		
39	○		データ構造と アルゴリズム	基本的なデータ構造、アルゴリズムを理解し適切に使う術を学ぶ。また、アルゴリズムの評価方法や適切に選択する方法を学習する。	1 前	30	2	○				○		○		
41	○		ITマネジメン ト	プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査について基本事項を学ぶ。	1 前	30	2	○				○			○	
42	○		ITストラテジ	システム戦略、経営戦略、企業と法務について基本事項を学ぶ。	1 前	30	2	○				○			○	
43	○		OS	オペレーティングシステムの基本的な機能・仕組みと、現代のオペレーティングシステムに要求されることを学ぶ。	1 後	30	2	○				○			○	
45	○		プログラム言 語	プログラムで用いられる文法と処理の基本的な手続きを学び、プログラム手法を同時に習得する。	1 通	120	8	○	○			○		○		
46	○		経営工学Ⅰ	生産管理・品質管理・ロジスティクス等、経営に対する工学的アプローチについて学ぶ。	1 後	30	2	○				○			○	
49	○		プログラミングⅠ	簡単な描画プログラム、データ型、演算子、標準出力、変数、繰り返し処理、マウス情報の取得、条件判断処理、関数を学ぶ。	2 前	30	2	○	○			○		○		
50	○		プログラミングⅡ	配列、リスト、テキストファイルの入出力、GUIプログラム、オブジェクト思考プログラミングの基本的な概念を理解し、基礎的なプログラムを作成できるようになる。	2 前	30	2	○	○			○			○	

51	○		プログラミングⅢ	カプセル化、継承、多態性といったオブジェクト指向プログラミングに特徴的な概念をプログラミングを通して表現できるようになる。	2 前	30	2	○	○		○	○		
52	○		プログラミングⅣ	デバッガを用いた開発手法、オブジェクトモデル及び駆動型プログラミングの概念や技法を理解し、これらを使用したプログラムを作成できる技術の習得を目指す。	3 前	30	2	○	○		○	○		
54	○		Web アプリケーション	コンピュータネットワーク、情報セキュリティ、データベース、Webデザイン等の知識を整理・統合し、これらがWebアプリケーションの構築にどのように活用されているか学ぶ。	2 前	60	4	○			○	○		
55	○		デバイス工学Ⅰ	情報を電気信号に変えて処理する各種情報処理装置や、それらの信号を伝達する各種通信装置を理解する上で必須となる基本的な回路形式について学ぶ。	2 通	60	4	○			○	○		
56	○		デバイス工学Ⅱ	デジタル回路の理解のために、ダイオードやトランジスタからなる、基本ゲート回路の構成について学ぶ。	2 通	60	4	○	○		○	○		
57	○		デバイス工学Ⅲ	ロボットをシミュレーター上で動作させる組込みプログラミングについて学ぶ。	3 通	60	4	○	○		○	○		
58	○		課題制作演習	2・3年生合同でグループを組み、システム開発を実践する。年齢や意見の異なる学生とディスカッションすることで、コミュニケーション能力や発想力を高める。	2 後	60	2		○		○	○		○
61	○		オートマトン	計算機で計算できるとはどういうことか、それには限界があるのかといったことを理論的な面から学ぶ。	2 後	30	2	○			○		○	
62	○		情報理論	情報の伝達や記憶の効率性、信頼性、安全性向上のための技術の基礎理論である情報理論を理解できることを目標とする。	3 後	30	2	○			○	○		
65	○		画像情報処理	コンピュータで画像を取り扱うための基本的な方法及び理論と要素技術について学び、実際にプログラムを画像に適用し、その効果を確認することで理解を深める。	3 後	30	2	○			○	○		
66	○		開発マネジメント演習	2・3年生合同でグループを組み、システム開発を実践する。プロジェクトをマネジメントする経験を通して、実践力を身に着ける。	3 後	60	2		○		○		○	
67	○		情報工学	アナログ通信のデジタル信号への変換、標準化、量子化、符号化、デジタル変調および復調技術、有線および無線通信システムへの応用などを学ぶ。	3 通	90	6	○			○	○		

68	○		応用プログラミング	データサイエンスと親和性の高いPythonプログラムの基礎を学ぶ。	3 後	30	2	○	○		○	○		
70	○		クラウド構築演習	クラウドコンピューティングサービスを利用して、クラウドサーバを構築する技術を学ぶ。	3 後	60	2		○		○	○		
71	○		データサイエンス演習	社会に存在する課題を発見し、データによる客観性を持たせた解析を用いて判断する材料を提供するための術を学ぶ。	4 前	60	2		○		○	○		
72	○		AI演習	画像解析用AIを構築し、AIを組み込んだシステムを構築する。	4 前	60	2		○		○	○		
73	○		IoT演習	センサーやモーターを用いたネットワークデバイスを用いて、情報を蓄積する術を学ぶ。	4 後	60	2		○		○	○		
74	○		情報解析	大量に収集したデータに法則性を見つけるための理論を学び、実践する。	4 後	60	2		○		○	○		
75	○		卒業研究Ⅰ	今まで学んだ知識・技術を総動員し、新規の制作物制作についての計画・設計を行う。	4 通	160	5		○		○	○	○	○
76	○		卒業研究Ⅱ	卒業研究制作物を制作する。	4 通	160	5		○		○	○	○	○
77	○		卒業研究Ⅲ	卒業論文の制作を行い、卒業研究結果を発表する。	4 通	160	5		○		○	○	○	○

卒業要件及び履修方法			授業期間等	
卒業要件： (1) 修業年限以上在籍し、必修科目の修得かつ校長が定める単位数以上を修得した者 (2) 査定日現在で学納金に未納がないこと			1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修科目および選択科目 (留意事項)			1 学期の授業期間	22 週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地					
静岡産業技術専門学校		昭和51年3月30日		松本 文晴		〒 420-8537 (住所) 静岡県静岡市葵区宮前町110-11 (電話) 054-261-8222					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地					
学校法人静岡理科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-8538 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 M20ビル13F (電話) 054-204-2490					
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程		ゲームクリエイト科		平成14(2002)年度				平成28(2016)年度		
学科の目的		コンピュータの最新技術導入が求められるゲーム業界において、コンピュータ技術を駆使し、独自の発想による企画、設計を行い、ゲーム開発要員としてゲーム会社で活躍できる確かな技術力を持ったゲームクリエイターの育成を目的とする。									
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)		プログラミングを主体として、ゲームクリエイターに必要な知識を総合的に学ぶ。資格：基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、C言語プログラミング能力認定試験、Javaプログラミング能力認定試験等 中途退学率：4.1%(令和6年度)									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技		
3	年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		単位時間	単位時間	単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	
			106 単位		45 単位	13 単位	48 単位	単位	単位		
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率				
90 人	152 人		0 人		0 %		0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		42		人						
	■就職希望者数(D)		41		人						
	■就職者数(E)		40		人						
	■地元就職者数(F)		20		人						
	■就職率(E/D)		98		%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		50		%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		95		%						
	■進学者数		0		人						
	■その他										
	自己就職										
(令和 7 年度卒業者に関する令和8年 5 月 1 日時点の情報)											
■主な就職先・業界等											
(令和7年度卒業生)											
(株)オルカ、(株)ORENDA WORLD、キーウェアソリューションズ(株)、(株)グッド・フィール、ヤマトシステム開発(株)、明電システムソリューション(株)、富士ファイルビジネスイノベーション(株)、富士ソフト(株)、ナビオコンピュータ(株)、(株)電翔、住友ベークライト(株)、静岡県警察本部、(株)建設システム											
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載										
	評価団体：		受審年月：		評価結果を掲載したホームページURL						
当該学科のホームページURL	https://www.sangi.ac.jp/										
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A：単位時間による算定)										
	総授業時数					単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数					単位時間					
	うち必修授業時数					単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位時間					
	(B：単位数による算定)										
	総単位数					111 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					単位						
うち企業等と連携した演習の単位数					単位						
うち必修単位数					106 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数					単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					1 人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					2 人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人					
	計					3 人					
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					3 人					

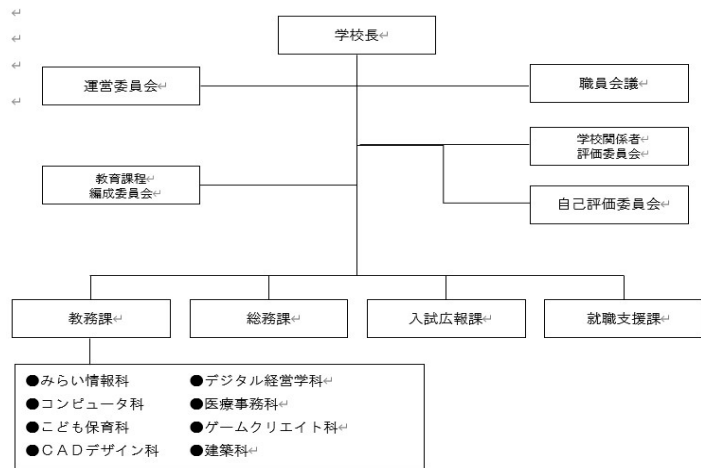
1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ゲーム業界において活躍することが出来るゲーム制作技術を修得したクリエイターの育成に必要な、技術・知識など業界ニーズを取り入れるために教育課程編成委員会を開催し、企業等の関係者の意見を加え授業科目及び授業時間を編成している。また教育内容は、変化の速い業界の最新のニーズにマッチするよう常に見直し、カリキュラムおよびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

ゲーム業界及び企業ニーズを教育に反映させるため学校組織内における教育課程編成委員会等の位置付けを「静岡産業技術専門学校 教育課程編成委員会の位置付けに係わる規程」として、またその運営を「静岡産業技術専門学校 教育課程編成委員会等の規則」として規定しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制としている。具体的には、教育課程編成委員会の意見を運営委員会で審議し、校長の許可を経て決定する。また、教育課程編成委員会は以下の図のように校長の下に設置されている。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
影山 由夏	CG-ARTS協会、教育事業部 企画制作グループ	令和8年2月1日～ 令和9年1月31日(1年)	①
井原 順司	株式会社ニューロンエイジ	令和8年2月1日～ 令和9年1月31日(1年)	③
松本 文晴	静岡産業技術専門学校 校長	令和8年2月1日～ 令和9年1月31日(1年)	－
塩崎 雅基	静岡産業技術専門学校 教務課長補佐	令和8年2月1日～ 令和9年1月31日(1年)	－
岡村 綾子	静岡産業技術専門学校 ゲームクリエイト科学 科長	令和8年2月1日～ 令和9年1月31日(1年)	－
井之上 結都	静岡産業技術専門学校 契約職員	令和8年2月1日～ 令和9年1月31日(1年)	－
青木 伴暢	静岡産業技術専門学校 教諭	令和8年2月1日～ 令和9年1月31日(1年)	－

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (7月、3月)
(開催日時(実績))
第1回 令和7年 8月28日 14:00～16:00
第2回 令和8年 3月24日 13:00～15:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
ゲーム業界への応募意欲を高める必要性について意見があり、業界講演を増やすなどの対応を進めている。しかし、26年卒生については入学時からIT志望者が多く、ゲーム志望者はごく少数にとどまっており、志望変更も少ない状況である。今後も希望者に対して的確な支援を行う体制を整える予定である。また、連携プロジェクトや課外活動の重要性が指摘され、多くの学生が積極的に参加している。教育課程外での実践的な学びの場として有効であるため、引き続き外部イベント等への参加を促す方針である。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
ゲーム制作演習を行うには、システム部分とコンテンツ部分が必要となる。特にコンテンツの高い完成度を求められる部分の教育を静岡地区において実施可能な講師を派遣できる企業を選定している。内部教員で充足しきれないCGのモデリングやそれを動かすためのオペレーションに特化した教育を実施可能な企業であることを優先している。
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
3Dモデリングソフトを使用して、モデリングやリギングを身につける。ゲームエンジンを用いて、モデリングしたコンテンツを動作させ、ゲームとして仕上げる技術を身につける。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ゲームエンジンⅡ	UEのゲーム制作・開発指導	ゲームエンジンを使用して、より高度で複雑なゲームの作成・開発手法を制作の実習を通して学習する。	ガネーシャデザイン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
「静岡産業技術専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識・技術の向上を図るための「教職員研修」を、企業等及び研修機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。
(2) 研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	CEDEC2025	連携企業等:	CESA
期間:	令和6年7月22日～24日	対象:	ゲーム業界関係者
内容	ゲーム開発における最新技術やノウハウの発表会		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	令和7年度キックオフ教職員研修会	連携企業等:	株式会社SNOPPI creation
期間:	令和7年4月30日	対象:	全教職員
内容	チームとして新体制教職員間のコミュニケーション機会と学生指導や連携体制などの共有		
研修名:	令和7年度指導力向上マナー研修会	連携企業等:	株式会社舎鐘
期間:	令和7年7月30日	対象:	全教職員
内容	アサーティブコミュニケーションについて		
研修名:	スクールハラスメント研修	連携企業等:	合同会社JEIT
期間:	令和8年2月27日	対象:	全教職員
内容	学生との適切な距離感を保ちつつ、信頼関係を築くための教育的関わり方を学ぶ		

(3)研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: CEDEC2026	連携企業等: CESA
期間: 令和8年7月22日～24日	対象: ゲーム業界関係者
内容: ゲーム開発における最新技術やノウハウの発表会	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 生成AI「UserLocalChatAI」研修会	連携企業等: 株式会社ユーザローカル
期間: 令和8年7月29日	対象: 全教職員
内容: デジタルトランスフォーメーションを推進し、教育の質向上を図るAIツールの利用方法	
研修名: 次世代リーダー研修(学校・学科運営等)	連携企業等: マイナビ
期間: 令和8年8月21日・令和8年12月21日	対象: 次世代リーダー
内容: 次世代の管理職層を育成し、学校・学科運営を通して教員の質向上を目指す	
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1)学校関係者評価の基本方針 本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、翌年度以降の目標設定や具体的取り組みに反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを基本方針に定め、2つの目的を掲げ実施している。 ①本校の教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表する。また、このことにより、本校の組織的・継続的な改善を図ること。 ②自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価により、適切な説明責任を果たすとともに、学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと学校との連携協力による特色ある学校づくりを進めること。	
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準(1) 教育理念、目標
(2)学校運営	基準(7) 学校運営
(3)教育活動	基準(2) 教育活動
(4)学修成果	基準(3) 教育成果
(5)学生支援	基準(4) 学生支援
(6)教育環境	基準(5) 教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準(6) 学生の募集と受け入れ
(8)財務	基準(7) 財務
(9)法令等の遵守	基準(7) 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準(8) 社会貢献
(11)国際交流	基準(8) 国際交流
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3)学校関係者評価結果の活用状況 施設設備の充実と学生・就職支援での決め細やかな対応を可能とする体制づくりについては現状の維持向上のための取り組みについて賛同をいただいている。教育、就職、生活支援等における質の維持・向上に努めた。シラバスについても、授業内で活用し学生への周知を促すようご意見をいただいたため、教育内容・指導方法向上に努めていく。	

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
塩谷 剛弘	(株)アイティエス	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	卒業生
白鳥 達也	鈴与システムテクノロジー(株)	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
蜂屋 雅基	(株)エイエイピー	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
松尾 卓明	(株)松尾鉄工所	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
清水 幸男	医療法人社団チームHSK	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
佐藤 弘卓	静岡県立科学技術高等学校	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	地域
柏木 博州	ライフプラザパートナーズ(株)	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	地域
近藤 直子	社会福祉法人静岡慈恵会 春日保育園	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
大塚 順平	(株)ORENDA WORLD	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
遠藤 正人	(株)杜建築設計事務所	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
伊沢 水木	静岡産業技術専門学校 後援会	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/03_20262025学校関係者評

公表時期: 令和8年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

産業構造や労働環境、さらには職業としての役割が大きく変化し続ける中において、本校がその教育理念、目的・目標、および教育活動や組織概要、特徴的な教育内容や学校が抱えている課題などを、社会に対して正確かつ積極的に伝えることが必要であり、そのために広く学校の情報を公開することを基本的な方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	設置コース、専門課程、就業年数、募集定員、学習時間数、入学者数、
(3) 教職員	教職員数、組織図、研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備、学校行事、各種コンテスト、大学との連携プロジェクト、選抜
(6) 学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8) 学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ(受入学科、入学選考方法、出願資格)
(11) その他	その他の教育活動(付帯授業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/01_2026学校情報.pdf

公表時期: 令和8年6月30日

授業科目等の概要

(工業専門課程 ゲームクリエイト科)																
分類				授業科目名	授業科目概要	配 当 学 期 年 次 ・	授 数 業 時	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	講 義						演 習	実 験 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
1	○			コミュニケーション活動Ⅰ	入学式、オリエンテーション、始業式、終業式、防災訓練などの学校全体の行事、遠足などの体育活動、各種ゲーム関連の展示会見学などの文化行事などの特別な活動を行う。	1 通	60	2		○			○			
2	○			コミュニケーション活動Ⅱ	始業式、終業式、遠足などの学校全体の行事、体育活動、講演会、各種ゲーム関連の展示会見学や文化行事などの特別な活動を行う。	2 通	60	2		○			○			
3	○			コミュニケーション活動Ⅲ	始業式、終業式、卒業式、遠足などの学校全体の行事、体育活動、講演会、各種ゲーム関連の展示会見学や文化行事などの特別な活動を行う。	3 通	90	3		○			○			
4	○			キャリアサポートⅠ	職業観・勤労観を身につけるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てることを目標とする。	1 通	30	1		○			○			
5	○			キャリアサポートⅡ	将来の目標意識を高めるとともに実際に就職活動を開始したときに困らないよう、社会人になるにあたっての意識・心構えを定着させていく。	2 通	30	1		○			○			
6	○			ゲーム数学	ベクトルや行列、三角関数などのゲームシステム作成上必要となる数学の基礎を学習する。	1 前	30	2	○				○			
7	○			情報基礎理論	情報及び情報処理の基礎を学んだ後、様々なデータ構造と、それを取り扱う基本的なアルゴリズムを通してアルゴリズムの設計や解析の基本的な手法を学習する。	1 前	30	2	○				○			
8	○			コンピュータシステム	コンピュータ利用者の立場に立ち、ソフトウェアとハードウェアの違いや、インターネットについての基本的な概念など、情報科学の知識について学習する。	1 前	60	4	○				○			

9	○			データベース基礎	関係データベースを基本に置き、データモデルとデータベースシステムの基本概念を理解し、データ設計やデータ操作、データ管理の原則と方法を学習する。	1 後	30	2	○				○			○	
10	○			ネットワーク基礎	文字、音声、画像などのデータをネットワークを通じてやり取りができるように、データ通信に用いられる基礎的な技術内容を習得する。	1 後	30	2	○				○			○	
11	○			システム開発基礎	システム設計に関する基礎知識や最新知識を学ぶとともに身近で簡単なシステムを作成することにより、情報システム開発の手段、方法を学習する。	1 前	30	2	○				○			○	
12	○			情報セキュリティ基礎	LANとインターネット、プロトコル、ネットワーク機器、情報セキュリティなどについて理解をするとともに、様々な脅威に対する情報セキュリティを学習する。	1 後	30	2	○				○			○	
13	○			システム開発演習	グループ単位でシステム開発、プログラミングを行い、プログラミング能力を向上させると共に、グループワークへの対応を身につける。	1 後	30	2	○	△			○			○	
14	○			アルゴリズム	情報処理の基礎およびデータ構造とそれを取り扱う基本的なアルゴリズムの設計や解析の基本的な手法を学習する。	1 後	60	4	○				○			○	
15	○			ゲーム概論	ゲームの歴史とその変容を通し、ゲームシステムの概要とその中でのコンピュータの役割、ゲーム制作工程、ゲーム業界の概要などについて学習する。	1 前	30	2	○				○			○	
16	○			レベルデザイン	ゲームを制作する上で重要となるキャラクターの設計を、実際のゲームで使用するキャラクターを発想法やデザイン方法を学習しながら実習として作成していく。	2 前	30	1		○			○			○	
17	○			ゲーム企画Ⅰ	ゲームのアイディアからデザイン、市場調査など企画書の書き方を中心に学習し、最終的に、ゲームの企画書の作成方法を理解した上で、独創的な企画を実習として作成していく。	1 後	30	1		○			○			○	
18	○			ゲーム企画Ⅱ	ゲームのアイディアからデザイン、市場調査など企画書に必要な項目を確認し、実習形式でグループワークを行い企画書を作成していく。	2 通	60	2		○			○			○	

19	○		ゲームシナリオ	ストーリーの書き方、ゲームシナリオの展開を、過去のゲームの研究・心理学的側面、文章表現などを含めて学習し、実習としてゲームシナリオを作成する。	3 前	30	1		○		○			○	
20	○		ゲームマネジメント	ゲーム開発の工程を踏まえ、プロジェクトの管理方法を学習する。	3 前	30	1		○		○		○		
21	○		コンピュータグラフィックス概論	ゲームのプログラムやコンピュータグラフィックスを作成するに当たり必要となるコンピュータグラフィックスの用語や理論、仕組みを学習し、CGエンジニア検定ベーシックの合格を目指す。	1 前	30	2	○			○		○		
22	○		コンピュータグラフィックスⅠ	2次元グラフィックスについて、各種ツールソフトの使用手法やデザインの手法等を、実習を中心として学習する。	1 通	30	1		○		○			○	
23	○		コンピュータグラフィックスⅡ	3次元グラフィックスソフトの操作方法及び作成の手法を、3次元グラフィックス及びアニメーションの制作を通して習得する。	2 通	120	4		○		○			○	
24	○		コンピュータグラフィックスⅢ	2次元CG及び3次元CGの制作技術をもとに、より高度な3次元グラフィックスの作成技術を制作実習を通して習得する。	3 前	120	4		○		○			○	
25	○		映像編集	ゲームの中で使用されるムービーや、ゲームのプレイ動画の編集方法を学習し、効果的なゲーム内ムービーや作品紹介ムービーの作成技術を実習を通して習得する。	2 後	30	1		○		○			○	
26	○		ゲームエンジンⅠ	ゲームの開発に使用されるゲームエンジンの基本操作を学習し小規模なゲームの作成方法を学習する。	1 通	60	2		○		○		○	△	
27	○		ゲームエンジンⅡ	より高度で複雑なゲームの作成・開発手法をゲームエンジンを使用した制作の実習を通して学習する。	2 後	60	2		○		○			○	○
28	○		プログラム言語Ⅰ	コンピュータのプログラム言語であるC言語についての基礎を学習し、制御構造、演算子、関数、データ構造などについて実習を通して学習する。	1 前	120	4		○		○		○		

[illegible]

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 得した者 (1) 修業年限以上在籍し、必修科目の修得かつ校長が定める単位数以上を修得した者 (2) 査定日現在で学納金に未納がないこと		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修科目および選択科目 (留意事項)		1 学期の授業期間	22 週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
静岡産業技術専門学校		昭和51年3月30日		松本 文晴		〒 420-8537 (住所) 静岡県静岡市葵区宮前町110-11 (電話) 054-261-8222		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人静岡理工科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-8538 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 M20ビル13F (電話) 054-204-2490		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程		建築科		平成12(2000)年度		平成29(2017)年度	
学科の目的		近年、建築は自国の文化を継承しつつ新技術との融合を図ることを求められており、建設業に対する期待と需要は増している。そこで建築科では幅広い教養をもった建設技術者の育成を目指すとともに建設資格の取得に必要な基礎知識を習得させることを目的とする。						
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)		卒業と同時に建築士の受験資格を取得し、最短ルートで一級建築士及び二級建築士の取得を目指す。 建設業界で必要とされるCAD及び3次元CGを学習し、実践力を身につける。 取得可能な資格：2級建築施工管理技術検定(一次検定)、建築CAD検定試験、宅地建物取引士、色彩検定、福祉住環境コーディネーター 中途退学率：3.2%(令和7年度)						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			選択AC: 97 単位 選択B: 95 単位	選択AC: 62 単位 選択B: 58 単位	選択AC: 34 単位 選択B: 36 単位	1 単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率	
60 人	68 人		2 人		3 %		0 %	
就職等の状況	■卒業者数(C)		33 人					
	■就職希望者数(D)		31 人					
	■就職者数(E)		31 人					
	■地元就職者数(F)		29 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		94 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		94 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	自己就職							
(令和7年度卒業生に関する令和8年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等								
(令和7年度卒業生)								
㈱石井組、(一財)静岡県建築住宅まちづくりセンター、大河原建設(株)、加和太建設(株)、木内建設(株)、静鉄建設(株)、静鉄ホームズ(株)、鈴与ホームパル(株)、セキスイハイム東海(株)、タマホーム(株)、大東建託(株)、東亜建設工業(株)、(株)中村組、(株)橋本組、(株)福工房、(株)ミサワホーム静岡、明德建設(株)、(株)山田工務店一級建築事務所								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無					
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	https://www.sangi.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		単位時間					
	うち必修授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間					
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数		選択AC: 97 単位 選択B: 95 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		3 単位						
うち必修単位数		選択AC: 93 単位 選択B: 91 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		3 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0 人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1 人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1 人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人			
	計				2 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				2 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

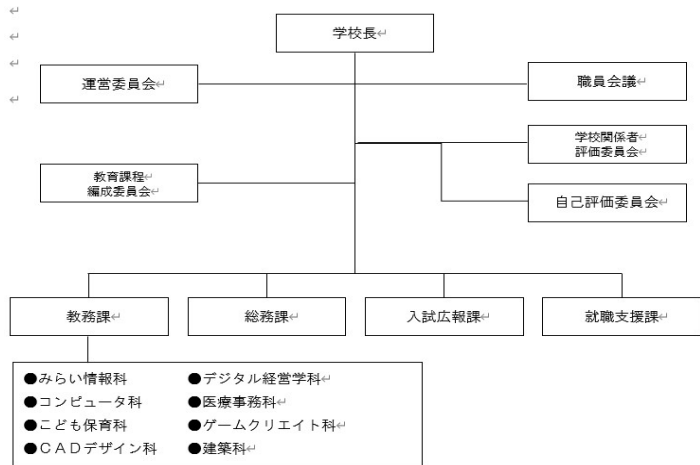
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

国土交通省の建築士試験および建築施工管理技術検定試験の合格を目指す教育カリキュラム・教育時間を十分に確保し、学科の育成目標である建築技術者としての基礎知識・技術を習得した上で、業界で採用されている設計手法およびコンピュータ活用技術、施工法を、実践的かつ専門的に指導可能な企業を選定している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

建設業界及び企業ニーズを教育に反映させるため、学校組織内における教育課程編成委員会等の位置付けを「静岡産業技術専門学校 教育課程編成委員会の位置付けに係わる規則」として、またその運営を「静岡産業技術専門学校 教育課程編成委員会等の規則」として規定しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制としている。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
栗原 崇	静岡県建築士事務所協会 中部支部 副支部長	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	①
横山 一	木内建設株式会社 管理本部 副本部長 兼 人事企画部長 執行役員	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	③
佐藤 行彦	有限会社佐藤建築設計室 取締役	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	③
松本 文晴	静岡産業技術専門学校 校長	令和8年4月1日～令和9年1月31日	—
横山 純	静岡産業技術専門学校 教務課長	令和8年4月1日～令和9年1月31日	—
石崎 哲也	静岡産業技術専門学校 建築科 学科長	令和8年4月1日～令和9年1月31日	—
大石 沙友里	静岡産業技術専門学校 建築科 教諭	令和8年4月1日～令和9年1月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (年間の開催数及び開催時期) 年2回 (8月、3月) (開催日時(実績)) 第1回 令和7年8月28日 10:20～12:00 第2回 令和8年3月16日 10:20～12:00			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。 建設業における動向、最新技術や現場が求める人材像・技術者像について意見を伺い、本校特異的分野科目についての提案。今後に向けてのカリキュラムや検定試験等の見直し。			
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 国土交通省の建築士試験及び建築施工管理技術検定試験の合格を目指す教育カリキュラム・教育時間を十分に確保し、学科の育成目標である建築技術者としての基礎知識・技術を習得した上で、業界で採用されている設計手法およびコンピュータ活用技術、施工法を、実践的かつ専門的に指導可能な企業を選定している。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 協力企業による設計製図、建築CAD製図、プレゼンテーション能力の基礎及びまちづくり演習を行い、即戦力となる人材を育成している。			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
建築CAD I	技術指導	建築製図の規則を理解し、CADで正確に作図する技術を習得する。	きづち工房 一級建築士事務所
建築製図 I	技術指導	鉄筋コンクリート構造を学び、RC造事務所の製図を作成する。	静岡県建築士事務所協会 一級建築士事務所 アーキブレイン 株式会社 杜建築設計事務所 株式会社 大瀧建築事務所
建築製図 II	技術指導	集合住宅や公共建築を題材に、設計・プレゼンを行う。	1級建築士事務所 アトリエ・F(株) (有)佐藤建築設計室
まちづくりファシリテーター養成講座	技術指導	街の課題を解決する知識とスキルを講義と実践で習得する。	一般社団法人 日本建築まちづくり適正支援機構

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡産業技術専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識・技術の向上を図るための「教職員研修」を、企業等及び研修機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	建築CAD検定試験説明会	連携企業等:	一般社団法人 全国建築CAD連盟
期間:	令和7年7月2日	対象:	学科担当
内容:	建築CAD検定試験の内容やポイント、作図における注意点など指導方法を学ぶ		
研修名:	オンデマンドKSゼミナール	連携企業等:	株式会社確認サービス
期間:	令和7年8月29日	対象:	学科担当
内容:	建築基準法、建築物省エネ法等の法改正を学ぶ		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	令和7年度キックオフ教職員研修会	連携企業等:	株式会社SNOPPI creation
期間:	令和7年4月30日	対象:	全教職員
内容:	チームとして新体制教職員間のコミュニケーション機会と学生指導や連携体制などの共有		
研修名:	令和7年度指導力向上マナー研修会	連携企業等:	株式会社舎鐘
期間:	令和7年7月30日	対象:	全教職員
内容:	アサーティブコミュニケーションについて		
研修名:	スクールハラスメント研修	連携企業等:	合同会社JEIT
期間:	令和8年2月27日	対象:	全教職員
内容:	学生との適切な距離感を保ちつつ、信頼関係を築くための教育的関わり方を学ぶ		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	オンデマンドKSゼミナール	連携企業等:	株式会社確認サービス
期間:	令和8年8月28日	対象:	学科担当
内容:	建築関係法令の改正内容や設計・工事監理に関する最新知識を学び、修了考査で理解度を確認する講習。		
研修名:	一級建築士定期講習	連携企業等:	株式会社 総合資格学院法定講習センター
期間:	令和8年8月28日	対象:	学科担当
内容:	建築関係法令の改正内容や設計・工事監理に関する最新知識を学び、修了考査で理解度を確認する講習。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	生成AI「UserLocalChatAI」研修会	連携企業等:	株式会社ユーザローカル
期間:	令和8年7月29日	対象:	全教職員
内容:	デジタルトランスフォーメーションを推進し、教育の質向上を図るAIツールの利用方法		
研修名:	次世代リーダー研修(学校・学科運営等)	連携企業等:	マイナビ
期間:	令和8年8月21日・令和8年12月21日	対象:	次世代リーダー
内容:	次世代の管理職層を育成し、学校・学科運営を通して教員の質向上を目指す		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、翌年度以降の目標設定や具体的取り組みに反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを基本方針に定め、2つの目的を掲げ実施している。

①本校の教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表する。また、このことにより、本校の組織的・継続的な改善を図ること。

②自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価により、適切な説明責任を果たすとともに、学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと学校との連携協力による特色ある学校づくりを進めること。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準(1) 教育理念、目標
(2)学校運営	基準(7) 学校運営
(3)教育活動	基準(2) 教育活動
(4)学修成果	基準(3) 教育成果
(5)学生支援	基準(4) 学生支援
(6)教育環境	基準(5) 教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準(6) 学生の募集と受け入れ
(8)財務	基準(7) 財務
(9)法令等の遵守	基準(7) 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準(8) 社会貢献
(11)国際交流	基準(8) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

施設設備の充実と学生・就職支援での決め細やかな対応を可能とする体制づくりについては現状の維持向上のための取り組みについて賛同をいただいている。教育、就職、生活支援等における質の維持・向上に努めた。シラバスについても、授業内で活用し学生への周知を促すようご意見をいただいたため、教育内容・指導方法向上に努めていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
塩谷 剛弘	(株)アイティエス	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	卒業生
白鳥 達也	鈴与システムテクノロジー(株)	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
蜂屋 雅基	(株)エイエイピー	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
松尾 卓明	(株)松尾鉄工所	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
清水 幸男	医療法人社団チームHSK	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
佐藤 弘卓	静岡県立科学技術高等学校	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	地域
柏木 博州	ライフプラザパートナーズ(株)	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	地域
近藤 直子	社会福祉法人静岡慈恵会 春日保育園	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
大塚 順平	(株)ORENDA WORLD	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
遠藤 正人	(株)杜建築設計事務所	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
伊沢 水木	静岡産業技術専門学校 後援会	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: [https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/03_20262025学校関係者評](https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/03_20262025学校関係者評価)
公表時期: 令和8年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

産業構造や労働環境、さらには職業としての役割が大きく変化し続ける中であって、本校がその教育理念、目的・目標、および教育活動や組織概要、特徴的な教育内容や学校が抱えている課題などを、社会に対して正確かつ積極的に伝えることが必要であり、そのために広く学校の情報を公開することを基本的な方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	設置コース、専門課程、就業年数、募集定員、学習時間数、入学者数、
(3)教職員	教職員数、組織図、研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備、学校行事、各種コンテスト、大学との連携プロジェクト、選択
(6)学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8)学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ(受入学科、入学選考方法、出願資格)
(11)その他	その他の教育活動(付帯授業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/01_2026学校情報.pdf

公表時期: 令和8年6月30日

授業科目等の概要

(工業専門課程 建築科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			WINDOWS演習	ワープロ・表計算はもとより、メール交換やWeb検索などネット社会で必要とされるパソコン全般に対する知識を深める。	1 通	30	1		○		○			○	
2			○	キャリアプランニングⅠ	日常の基本的な挨拶から社会人としての必要な常識、マナー、ビジネス文書の書き方などの基本について学習する。また、2年次の就職活動に必要な知識についても学ぶ。	1 通	30	1	○	○		○		○	○	
3			○	キャリアプランニングⅡ	建築技術者として必要な資質を高めることを目的として、一般常識、礼儀作法、ビジネス文書等の技能を習得する。さらに、就職活動における自己アピールの訓練や服装などについても学ぶ。	2 通	30	1	○	○		○		○	○	
4			○	コミュニケーション活動Ⅰ	講演会、建築見学会など課外活動を行う。健全な心身の育成と人格の形成を目的とし、学生相互、及び教員とのコミュニケーションを深めると共に、建築技術者としての資質を養う。	1 通	60	1		○		○	○	○		
5			○	コミュニケーション活動Ⅱ	講演会、建築見学会など課外活動を行う。健全な心身の育成と人格の形成を目的とし、学生相互、及び教員とのコミュニケーションを深めると共に、建築技術者としての資質を養う。	2 通	90	1		○		○	○	○		
6	○			建築計画Ⅰ	住宅、事務所および公共施設の用途に供する建築の特徴を知り、その空間構成や平面計画について学習する。また、居住性について文化的側面や人体モジュールから創作できるよう基礎能力を養う。	1 通	60	4	○			○			○	
7	○			建築デザイン史	日本と西洋における建築の歴史を学ぶと共に、造形デザインの概要的な歴史についても学習する。各時代・各地域の特性や様式の知識を習得することで、建築空間におけるデザインの基礎力を養う。	1 通	60	4	○			○			○	
8	○			建築設備	人が健康的かつ快適に生活するために必要である建築設備について学習する。この科目では特に建築計画と設備設置の方法、空気調和設備、給排水設備、消防設備について学習する。	1 通	60	4	○			○			○	
9	○			構造力学Ⅰ	柱と梁で建物を支えるラーメン構造に働く外力や応力を求めることで、構造物に働く力について理解し、安全性について検討できる基礎的能力を養う。またトラス構造の解法についても学ぶ。	1 通	60	4	○			○			○	
10	○			建築構造Ⅰ	主として、木造建築の主要部材とその仕組みについて学習する。また、防火、耐風、耐震などの災害への安全性に配慮できる基礎的能力を養う。また、構造計画上必要な関係法令についても学習する。	1 通	60	4	○			○			○	

11	○		建築構造Ⅱ	建築構造Ⅰに引き続き、鉄骨造、鉄筋コンクリート造の建築物の主要部材とその仕組みについて学習する。また防火、耐震、耐風など災害における安全性について検討し、対処する方法について学ぶ。	2通	60	4	○			○			○
12	○		材料実験	建築物を構成する主要材料の特性について、実験を通して理解を深める。また、建築部材の性質を知ることによって建築構法を選択し、評価・判断する能力を養う。	1通	30	1			○	○		○	
13	○		建築施工Ⅰ	建築工事の準備段階から完成までの各分野をまんべんなく学習する。工事のおおまかな流れをつかみ、覚えるべき規定、数値についての理解を深める。	1通	60	4	○			○		○	
14	○		建築法規Ⅰ	建築設計において検討しなければならない法的ルールについて規制の根拠とその内容について学習する。ここでは用語の定義から始まり、単体規定を中心に学ぶ。	1通	60	4	○			○		○	
15	○		建築法規Ⅱ	建築法規Ⅰに引き続き、建築設計において検討しなければならない法的ルールについて規制の根拠とその内容について学習する。主に集団規定について学習する。	2通	60	4	○			○			○
16	○		建築製図Ⅰ	図面における線の引き方や図・記号等建築の製図規則を知り、住宅や店舗などの各種用途に供する建築製図及びこれらに関する設計仕様書の作成についても学ぶ。	1通	180	6	△	○		○		○	○
17	○		建築製図Ⅱ	公共建築などの設計について学習する。意匠・計画・構造・法規等の条件をクリアし、整合性のある建築を創造する。最適な建築空間を作り上げていくことで、実務に則した技術を習得していく。	2前	90	3	△	○		○		○	○
18	○		建築CADⅠ	建築製図の規則を理解したうえで、CADを使い作図を行う。操作方法を覚えた上で、より早く、より正確に作図できるような技術習得を目標とする。また、建築CAD検定試験の対策授業を行う。	1通	120	4	△	○		○			○
19	○		建築CADⅡ	建築CADⅠに引き続き、建築CAD技術の習得を目標とする。作図に必要な操作方法を理解した上で、様々な応用テクニックについても習得する。また、建築CAD検定試験の対策授業を行う。	2通	90	3	△	○		○		○	
20	○		建築プレゼンテーションⅠ	建築プレゼンテーションの基本図となる建築パースを基礎から学習する。各自が計画した住宅図面を使用し、1枚の完成予想図を作図する過程において表現力と創造力を養う。	1後	60	2		○		○			○
21	○		建築プレゼンテーションⅡ	BIMソフトの操作方法を習得し、それを利用したプレゼンテーション技法について学習する。見た目に美しく、そしてわかりやすい表現方法を身に付けることが目標である。	2通	60	2		○		○		○	
22	○		模型製作	自由設計した木造住宅の模型製作を行い、建築を3次元で捉える習慣付けと、形態の重要性について学習する。	1通	90	3		○		○			○

23	○		特別講義Ⅰ	建築業に携わる方を招いて実例等を交えた講義を行う。また、色彩検定の対策授業も行う。	1 通	60	4	○			○		○	○	
24	○		特別講義Ⅱ	建築業に携わる方を招いて実例等を交えた講義を行う。また、各種検定試験の対策授業を行う。	2 通	60	4	○			○		○	○	
25	○		卒業制作	個人またはグループごとに決定したテーマに沿って、2年間の学習のまとめとして作品を完成させる。その建築作品は卒業制作としてまとめられ、総仕上げとしての発表を行う。	2 後	180	6		○		○		○	○	
26		○	建築計画Ⅱ	集合住宅や事務所ビル、ホテルなどの商業施設、図書館などの公共施設など、それぞれの用途の特性を理解し、その目的にあった計画手法を習得する。	2 通	60	4	○			○			○	
27		○	環境工学	採光、換気、断熱、防音、音響など人間の心身に影響を及ぼす室内環境の快適性について学習する。自然科学の理論を用い、個々の建築環境を検討・評価できる能力を養う。	2 通	30	2	○			○		○		
28		○	構造力学Ⅱ	静定構造物の応力算定について理解を深めるとともに建築部材の断面特性について学習する。また、建築構造設計において検討すべき許容応力度設計についても演習を通して学習する。	2 通	60	4	○			○		○		
29		○	建築材料学	金属、石、ガラスなどの各種建築材料の種類と特徴を理解することで、適材適所な利用方法を習得する。また、それらの施工方法についても学習する。	2 通	60	4	○			○			○	
30		○	建築施工Ⅱ	2年次に取得予定である2級建築施工管理技術検定試験（第一次検定）の対策を実施する。	2 通	60	4	○			○		○		
31		○	施工技術実習	建築施工管理に必要な建築工事の概論、設計図、積算、施工計画、測量、仮設工事、躯体工事及び安全管理等について基本的な知識の習得と実習を通して技能習得を目標とする。	2 通	60	2		○		○		○		
32		○	施工管理	国家資格である2級建築施工管理技術検定試験（第一次検定）の合格を目標に、施工管理者として必要な知識を習得する。特に施工管理法について重点的に学習する。	2 通	60	4	○			○		○		
33		○	建築色彩	建築デザインにおいて色彩は欠くことのできない要素であり、その理論と配色方法を学ぶことが快適な住環境を計画するための第一歩である。そこで色彩の基本について学習する。	2 通	60	4	○			○			○	
34		○	インテリア計画	住宅だけでなく店舗や飲食店、公共施設などの大規模建築についてのインテリア計画論について学習する。	2 通	120	8	○			○			○	

35	○	住環境計画	建築物において子供や高齢者、また身障者は何かしらの不便を感じていることが多い。そこでこれらの問題を意識し、改善していこうという運動であるユニバーサルデザインについて学習する。	2 通	90	6	○			○	○		
合計			35 科目			2460 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： (1) 修業年限以上在籍し、必修科目の修得かつ校長が定める単位数以上を修得した者 (2) 査定日現在で学納金に未納がないこと		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修科目および選択科目		1 学期の授業期間	22 週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
静岡産業技術専門学校		昭和51年3月30日		松本 文晴		〒 420-8537 (住所) 静岡県静岡市葵区宮前町110-11 (電話) 054-261-8222		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人静岡理工科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-8538 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 M20ビル13F (電話) 054-204-2490		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
工業	工業専門課程		CADデザイン科		平成19(2007)年度			平成28(2016)年度
学科の目的		技術革新が日進月歩している製造・設計の現場において、設計の基本を理解し、3次元CAD技術を駆使し、設計のみならず、解析・シミュレーション・3Dプリンタによる試作等、新たな製造設計技術に対応できるCAD技術者の育成を目的とする。						
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)		3次元CADを使いこなし、モノづくりの基礎知識を学び次世代で活躍できる製品設計技術者を目指す。 一般社団法人コンピュータ教育振興協会主催 2次元CAD利用技術者試験2級、1級 一般社団法人コンピュータ教育振興協会主催 3次元CAD利用技術者試験2級、1級						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
		73 単位		20 単位	53 単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率	
40 人	37 人		1 人		3 %		0 %	
就職等の状況	■卒業者数(C)		14 人					
	■就職希望者数(D)		14 人					
	■就職者数(E)		14 人					
	■地元就職者数(F)		9 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		64 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	(令和 7 年度卒業生に関する令和 8 年 5 月 1 日時点の情報)							
■主な就職先、業界等								
(令和7年度卒業生)								
トヨタ自動車(株)、日産自動車(株)、(株)青島文化教材社、(株)飯田設計、(株)イデア、(株)システム・サーキット・テック、東海テクノ(株)、矢崎部品(株)ものづくりセンター								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無			
当該学科のホームページ URL	https://www.sangi.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		単位時間					
	うち必修授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間					
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数		76 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		20 単位						
うち必修単位数		73 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		20 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人	
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				0 人	
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人	
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1 人	
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人	
	計						2 人	
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数						2 人	

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

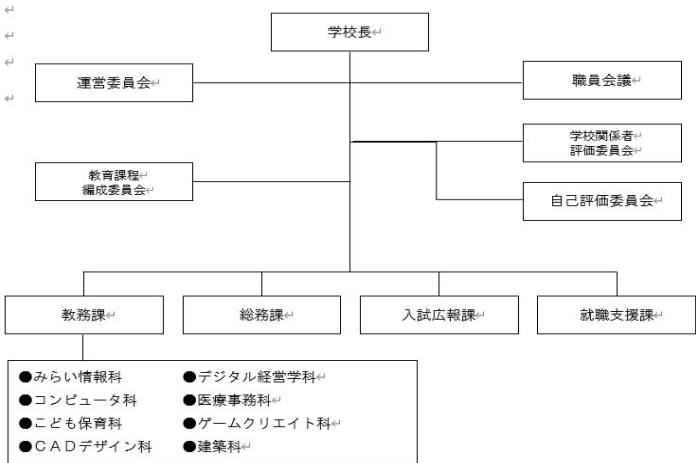
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

様々な分野でのものづくりを支えるCAD技術者を地元企業に送り出すために、CAD関連業界において必要な技術、知識などの企業ニーズを取り入れることを目的とした教育課程編成委員会を開催し、企業等の関係者の意見等を加え授業科目及び授業時間を編成している。また、教育内容を製造・設計業界のニーズにマッチするよう常に見直し、カリキュラム及びシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

ものづくり業界及び企業ニーズを教育に反映させるため、学校組織内における教育課程編成委員会等の位置付けを「静岡産業技術専門学校 教育課程編成委員会の位置付けに係わる規則」として、またその運営を「静岡産業技術専門学校 教育課程編成委員会等の規則」として規定しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制としている。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
原田 剛志	一般社団法人 コンピュータ教育振興協会	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	①
佐野 禎彦	公益社団法人 静岡県産業振興財団	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	①
猿川 雄一	有限会社サルカワデザイン 代表取締役	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	③
吉岡 忠司	株式会社システム・サーキット・テック	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	③
松本 文晴	静岡産業技術専門学校 校長	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	
横山 純	静岡産業技術専門学校 教務課長	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	
仙波 久実	静岡産業技術専門学校CADデザイン科 学科長	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	
鈴木 貴太	静岡産業技術専門学校CADデザイン科 教員	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)

年2回（8月、3月）

(開催日時(実績))

第1回 令和7年8月22日 14:00～16:30

第2回 令和8年3月24日 14:00～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

カリキュラム改定に向けての業界の動向のアドバイスや、単位制移行に関する情報交換、カリキュラム改編に関する意見等をいただいた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

製品開発における設計・モデリング技術を習得することを目的に、モデリング、機械設計、製図、解析などの各工程を、演習を通して現場レベルの視点で指導することが可能な企業を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

製品開発における各工程(モデリング・設計製図・製図)を企業の技術者の指導のもと学習を行い、課題制作物の制作などを行う

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
アイデア演習 I	技術指導	アイデアを具体化する手書きのスケッチの描き方を演習形式で学ぶ。自分のアイデアをスケッチで表現し、第三者に発表することができるようになる。	有限会社サルカワデザイン
コンピュータ基礎	技術指導	Solidworksの解析機能を使って橋を設計。パスタとグルーガンを使用して模型を作り強度試験を行い、解析結果と実際の差異について体験する。	株式会社TEK
デザイン演習	技術指導	グループでのアイデア発想、プレゼンテーションの実施を行う	有限会社サルカワデザイン
CAE解析	技術指導	Solidworksの解析機能を使って機構解析や静解析を実施し、結果を踏まえた設計変更を行い、設計要件を満たした形状の設計方法を修得する。	公立大学法人 静岡文化芸術大学 名誉教授 工学博士 望月 達也
卒業研究	技術指導	EV自動車用の充電コネクタハンドルを題材にモデリング、アセンブリを行い、試作を行い、実際の製品のモデリングから試作を学ぶ。	株式会社システム・サーキット・テック

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡産業技術専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識・技術の向上を図るための「教職員研修」を、企業等及び研修機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	3Dプリンタ活用法(入門)	連携企業等:	静岡県立工科短期大学校
期間:	令和7年8月27日～29日	対象:	科目担当
内容:	FDM式3Dプリンタの仕組みとモデリングから出力までを学ぶ		
研修名:	静岡県アウトドア技術研究会ワークショップ	連携企業等:	静岡県アウトドア技術研究会
期間:	令和7年1月20日	対象:	科目担当
内容:	アウトドア用品を題材に企画～試作までを学ぶ		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	令和7年度キックオフ教職員研修会	連携企業等:	株式会社SNOPPI creation
期間:	令和7年4月30日	対象:	全教職員
内容:	チームとして新体制教職員間のコミュニケーション機会と学生指導や連携体制などの共有		
研修名:	令和7年度指導力向上マナー研修会	連携企業等:	株式会社舎鐘
期間:	令和7年7月30日	対象:	全教職員
内容:	アサーティブコミュニケーションについて		
研修名:	スクールハラスメント研修	連携企業等:	合同会社JEIT
期間:	令和8年2月27日	対象:	全教職員
内容:	学生との適切な距離感を保ちつつ、信頼関係を築くための教育的関わり方を学ぶ		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	幾何公差の使い方・表し方(入門)	連携企業等:	静岡県立工科短期大学校
期間:	令和8年2月25日～26日	対象:	科目担当
内容:	高精度なものづくりとクローバル化に必要な不可欠な幾何公差に焦点をあて、図面に必要な知識を学びます。		
研修名:	ドローン活用入門	連携企業等:	静岡県立工科短期大学校
期間:	令和8年10月14日～15日	対象:	科目担当
内容:	ドローンに関する基本操作、点検、整備、安全運航管理方法を習得。併せて活用事例から利用例を学ぶ		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	生成AI「UserLocalChatAI」研修会	連携企業等:	株式会社ユーザローカル
期間:	令和8年7月29日	対象:	全教職員
内容:	デジタルトランスフォーメーションを推進し、教育の質向上を図るAIツールの利用方法		
研修名:	次世代リーダー研修(学校・学科運営等)	連携企業等:	マイナビ
期間:	令和8年8月21日・令和8年12月21日	対象:	次世代リーダー
内容:	次世代の管理職層を育成し、学校・学科運営を通して教員の質向上を目指す		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、翌年度以降の目標設定や具体的取り組みに反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを基本方針に定め、2つの目的を掲げ実施している。

①本校の教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表する。また、このことにより、本校の組織的・継続的な改善を図ること。

②自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価により、適切な説明責任を果たすとともに、学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと学校との連携協力による特色ある学校づくりを進めること。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準(1) 教育理念、目標
(2)学校運営	基準(7) 学校運営
(3)教育活動	基準(2) 教育活動
(4)学修成果	基準(3) 教育成果
(5)学生支援	基準(4) 学生支援
(6)教育環境	基準(5) 教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準(6) 学生の募集と受け入れ
(8)財務	基準(7) 財務
(9)法令等の遵守	基準(7) 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準(8) 社会貢献
(11)国際交流	基準(8) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

施設設備の充実と学生・就職支援での決め細やかな対応を可能とする体制づくりについては現状の維持向上のための取り組みについて賛同をいただいている。教育、就職、生活支援等における質の維持・向上に努めた。シラバスについても、授業内で活用し学生への周知を促すようご意見をいただいたため、教育内容・指導方法向上に努めていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
塩谷 剛弘	(株)アイティエス	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	卒業生
白鳥 達也	鈴与システムテクノロジー(株)	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
蜂屋 雅基	(株)エイエイピー	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
松尾 卓明	(株)松尾鉄工所	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
清水 幸男	医療法人社団チームHSK	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
佐藤 弘卓	静岡県立科学技術高等学校	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	地域
柏木 博州	ライフプラザパートナーズ(株)	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	地域
近藤 直子	社会福祉法人静岡慈恵会 春日保育園	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
大塚 順平	(株)ORENDA WORLD	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
遠藤 正人	(株)杜建築設計事務所	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
伊沢 水木	静岡産業技術専門学校 後援会	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/03_20262025学校関係者評

公表時期: 令和8年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

産業構造や労働環境、さらには職業としての役割が大きく変化し続ける中であって、本校がその教育理念、目的・目標、および教育活動や組織概要、特徴的な教育内容や学校が抱えている課題などを、社会に対して正確かつ積極的に伝えることが必要であり、そのために広く学校の情報を公開することを基本的な方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	設置コース、専門課程、就業年数、募集定員、学習時間数、入学者数、
(3) 教職員	教職員数、組織図、研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備、学校行事、各種コンテスト、大学との連携プロジェクト、選択
(6) 学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8) 学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ(受入学科、入学選考方法、出願資格)
(11) その他	その他の教育活動(付帯授業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/01_2026学校情報.pdf

公表時期: 令和8年6月30日

授業科目等の概要

(工業専門課程 CADデザイン科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1		○		コミュニケーション活動Ⅰ	学校行事（入学式等の式典・遠足等）や工場見学・展示会見学等を行う。	1 通	60	1		○		○	○	○		
2		○		コミュニケーション活動Ⅱ	学校行事（入学式等の式典・遠足・修学旅行等）や工場見学・展示会見学等を行う。	2 通	90	1		○		○	○	○		
3		○		キャリアサ ポート	社会人として必要な企業常識、礼儀作法、ビジネス文章の作成方法などの基礎知識の習得を行う。就職活動のための履歴書作成、面接練習等を行い、就職活動ができるようになる。	1 通	30	1	○			○		○	○	
4	○			ビジネスアプ リケーション	ビジネス文書などの資料作成に必須のMicrosoft Office(Word、Excel)を演習形式で学習し、ビジネス文章を作成できるようになる。	1 前	30	1		○		○			○	
5	○			プレゼンテー ション	自分の提案を相手にわかりやすく伝えるプレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）を演習形式で学習し、実際にプレゼンテーションを行うことができるようになる。	1 後	30	1		○		○			○	
6	○			基礎数学	機械設計者に必要な基礎数学を学習する。機械設計の計算や、就職採用選考時の試験問題を解くことができるようになる。	1 通	60	4	○			○		○	○	
7	○			コンピュータ 基礎	CADを使用する技術者に必要なコンピュータ知識（2次元、3次元CAD利用技術者試験2級）を学習する。業務に必要なコンピュータ知識を持ち、CADを利用する事ができるようになる。	1 前	60	4	○			○		○		○

8	○			アイデア演習 I	アイデアを具体化する手書きのスケッチの描き方を演習形式で学ぶ。自分のアイデアをスケッチで表現し、第三者に発表することができるようになる。	1 後	60	2		○		○			○	○
9	○			アイデア演習 II	知的財産について学ぶ。すでに世に出ている製品や特許を調べながら、新規性、進歩性のある発明を考え、資料としてまとめ発表する事ができるようになる。	2 前	60	2		○		○			○	○
10	○			画像編集アプリケーション	画像や動画を編集する基本的な方法を演習で学習する。プレゼンテーション用資料、課題レポート、卒業研究論文などで分かりやすい図や動画を使用する事ができるようになる。	1 後	30	1		○		○		○		
11	○			CAD基礎	3次元CADソフトの基本的な操作方法(モデリング、アセンブリ、図面作成)を演習で学習する。CADを使用して基本的なモデルの作成ができるようになる。	1 通	90	3		○		○		○		
12	○			CAD応用	CAD基礎に続き、様々なモデリングを繰り返し行い習熟度を上げる。より複雑・高度なモデルを素早く・正確に作ることができるようになる。	1 通	60	2		○		○		○	○	
13	○			作品制作	プラモデルなどの模型製作を行い、ものづくりの理解を深める。CADを用いて創作活動を行い、自分が考えたアイデアをCADでモデリングする事ができるようになる。	1 通	60	2		○		○		○		
14	○			3次元モデル活用 I	3次元CGソフトを使用してポリゴンモデルの編集方法や、CADデータへの変換方法、レンダリングなどを演習で学ぶ。ポリゴンデータとCADデータの違いを理解し、相互に活用できるようになる。	1 後	60	2		○		○		○	○	
15	○			3次元モデル活用 II	リバースエンジニアリング手法を演習で学ぶ。実物を3Dスキャン、3DCGソフトによる編集、CADデータへの変換と、3Dプリントで試作する事ができるようになる。	2 前	60	2		○		○		○	○	
16	○			機械製図 I	基礎的なJIS規格の製図方法や、製図に用いる各種記号・表記方法などを学習しながら製図演習を行う。基本的な三面図および投影図の読み取りや製図ができるようになる。	1 前	60	2		○		○			○	

17	○		機械製図Ⅱ	CADを用いてJIS機械製図に則った機械製図の製図方法を演習形式で学習する。基本的な機械部品の製図ができるようになる。	2 前	60	2		○		○			○	
18	○		工業力学	機械の機構や動力などの設計に必要な工業力学を講義で学ぶ。SI単位を理解し基本的な工業力学の計算ができるようになる。	1 後	30	2	○			○				○
19	○		材料力学	機械の構造部品の設計に必要な材料力学を講義で学ぶ。基本的な強度計算ができるようになる。	2 前	30	2	○			○				○
20	○		機械工学Ⅰ	製品設計に必要な、材料・加工等について講義で学習する。素材・加工に関する基本的知識を持ち、製品にどのような材料や加工方法が使用されているのか調査、判断する事ができるようになる。	1 通	60	4	○			○				○
21	○		機械工学Ⅱ	製品設計に必要な、機械要素などについて、講義で学習する。機械工学のまとめとして基本的な機械設計を演習で学ぶ。製品にどのような機械要素が使用されているのか調査、判断する事ができるようになる。	2 通	60	4	○			○		○	○	
22	○		金型設計	もの作りの基本である金型について、「三大金型」の成形方法と金型の仕組みについて学ぶ。製品がどのような金型を用いて成形されているのか調査、判断する事ができるようになる。	2 前	30	1		○		○				○
23	○		CAE解析	3次元CADを使用して機構解析・応力解析等を演習で学ぶ。解析を通じて力学等の知識の理解を深める。基本的な部品の解析を行うことができるようになる。	2 通	60	2		○		○			○	○
24	○		2次元CAD資格対策Ⅰ	2次元CAD利用技術者試験2級の合格を目指した学習を行う。CADシステムの基本と関連知識、製図や図形の基本的な知識を身に付けていくようになる。	1 通	150	5		○		○		○	○	
25	○		2次元CAD資格対策Ⅱ	2次元CAD利用技術者試験1級の合格を目指した学習を行う。機械製図の基礎知識を身に付け、課題図の指示を読み取り、速く正確な作図ができるようになる。	2 通	120	4		○		○		○	○	

26	○		3次元CAD資格対策Ⅰ	3次元CAD利用技術者試験2級の合格を目指した学習を行う。3次元CADシステムの基本と関連知識や活用技術の基本的な知識を身に付けていくようになる。	1通	120	4		○		○		○	○	
27	○		3次元CAD資格対策Ⅱ	3次元CAD利用技術者試験1級の合格を目指した学習を実施する。複雑な課題図の形状を読み取り、速く正確なモデリングができるようになる。	2通	150	5		○		○		○	○	
28	○		卒業制作	2年間の総まとめとして企業から課題をいただき、課題制作や発表、論文作成などを行う。企業とのやり取りの中で社会人としてのマナーなども身に付ける。2年間身に付けたことを活用した制作ができるようになる。	2後	300	10		○		○	○	○	○	○
合計				28 科目			2070 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：(1) 修業年限以上在籍し、必修科目の修得かつ校長が定める単位数以上を修得した者 (2) 査定日現在で学納金に未納がないこと		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：必修科目および選択科目		1 学期の授業期間	22 週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
静岡産業技術専門学校		昭和51年3月30日		松本 文晴		〒 420-8537 (住所) 静岡県静岡市葵区宮前町110-11 (電話) 054-261-8222		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人静岡理工科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-8538 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 M20ビル13F (電話) 054-204-2490		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
商業実務	商業実務専門課程		医療事務科		平成25(2013)年度			平成28(2016)年度
学科の目的		幅広い年齢層の患者に合わせ、相手の立場に立って対応できるよう思いやりの心を育てるため、専門知識+αとして、徹底したマナー教育・心理学等から 医療現場に働く者としての在り方、考え方を踏まえたITに強い医療事務員の育成を目的とする。						
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)		業務で必要な幅広い専門知識とITスキル、人に寄り添う心を持った医療事務員育成も目指す。 医療秘書技能検定試験、医師事務作業補助技能認定試験、電子カルテ実技検定試験、調剤薬局事務検定試験、IT/パスポート試験、秘書技能検定、Microsoft Office Specialist Word・Excel他						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			77 単位	50 単位	28 単位	3 単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率	
40 人	26 人		0 人		0 %		0 %	
就職等の状況	■卒業者数(C)		25 人					
	■就職希望者数(D)		25 人					
	■就職者数(E)		25 人					
	■地元就職者数(F)		25 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		100 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	自己就職							
(令和 7 年度卒業生に関する令和 8 年 5 月 1 日時点の情報)								
■主な就職先、業界等								
(令和7年度卒業生)								
焼津市立総合病院、(医)平成会 藤枝平成記念病院、(医)徳洲会 榛原総合病院、(独)地域医療機能推進機構清水さくら病院、島田市立総合医療センター、静岡県厚生農業協同組合連合会、田中消化器科クリニック、さくら薬局(株)、(株)ニチイ学館、(有)みなと薬局								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無					
※有の場合、例えば以下について任意記載								
評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.sangi.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間			
	うち必修授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間			
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数				81 単位			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				3 単位				
うち企業等と連携した演習の単位数				2 単位				
うち必修単位数				77 単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				3 単位				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				2 単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				3 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1 人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		人			
	計				1 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				1 人			

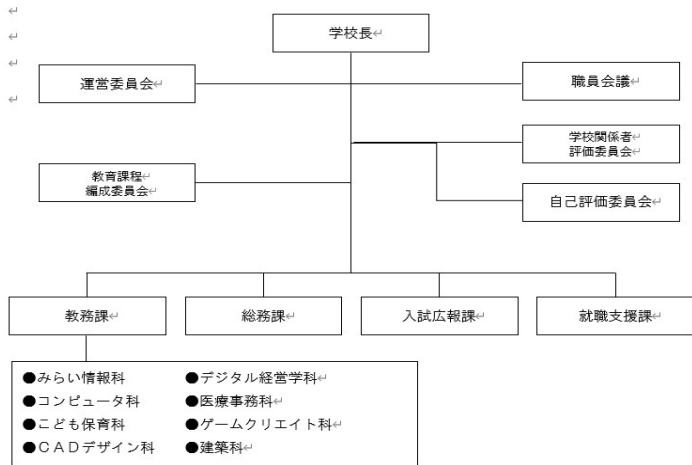
1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

医療系資格及びIT系資格の合格を目指す教育カリキュラム・教育時間を基に、医療事務業界において必要な知識、技能等の業界のニーズを取り入れるため教育課程編成委員会を開催し、企業等の関係者の意見等を踏まえ授業科目及び授業時間を編成している。教育内容は業界のニーズにマッチするよう常に見直し、カリキュラム及びシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

医療事務業界及び企業ニーズを教育に反映させるため、学校組織内における教育課程編成委員会等の位置付けを「静岡産業技術専門学校 教育課程編成委員会の位置付けに係わる規則」として、またその運営を「静岡産業技術専門学校 教育課程編成委員会等の規則」として規定しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制としている。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
水口 錠二	一般社団法人日本医療報酬調査会 理事長	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	①
中川 良一	医療法人社団俵IVFクリニック 理事	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	③
曾宮 誠子	公益財団法人静岡県予防医学協会 事務管理課	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	③
松本 文晴	静岡産業技術専門学校 校長	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	—
島田 幸紀	静岡産業技術専門学校 医療事務科 学科長	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	—
吉村 香央里	静岡産業技術専門学校 医療事務科・こども保育科 学科長	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	—
嶋津 大樹	静岡産業技術専門学校 医療事務科教諭	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (年間の開催数及び開催時期) 年2回 (8月、3月) (開催日時(実績)) 第1回 令和7年8月 5日 14:00～16:00 第2回 令和8年3月16日 14:00～16:00			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。 学科運営実績報告。本校特異的分野科目についての提案。将来に向けて改正案の検討。			
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 地域に密着した医療現場であって、学生の実習受け入れ可能な病院・医院を選定している。また、実習の受け入れに当たり学習の一環である旨を理解し、指導体制が明確な医療機関であることも選定の方針としている。学生個々の居住地域に配慮し、就職活動地域となる医療機関を選定することにも配慮している。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 授業科目の担当教員と受け入れ医療機関の担当者にて、実習前に実習スケジュールや実習内容の打ち合わせを行い学生の学習成果である実習評価表の項目を確認。実習期間中は、各医療機関を1回巡回し、学生の学習状況を直接確認し、実習担当者との情報交換を行う。実習終了時には、実習担当者からの実習評価表と事後に作成する報告書にて、担当教員が成績評価を行う。			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
医療機関実習	技術指導・研修	医療現場の協力を得て、今後の医療医務員を育成することを目的に実施。医療現場の一端に触れることで、学校での学習がどのように活用・展開されているか実体験し、知識の定着と今後の学習における動機付けを行う。	島田市立総合医療センター、静岡徳洲会病院、静岡済生会病院、清水さくら病院、いとう耳鼻咽喉科、すずらん薬局、富士整形外科病院、杏林堂薬局 等 全10カ所
介護基礎	技術指導	高齢者の疾患や心理基本的ケア、福祉用具など介助・介護で求められる知識を学ぶ。身体の不自由な人や高齢者に対する介助・介護方法等、医療現場で求められる技能を体験的に習得する。	静岡県介護福祉士会
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「静岡産業技術専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識・技術の向上を図るための「教職員研修」を、企業等及び研修機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。			

(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 医療事務講座(医科)	連携企業等: 株式会社ニチイ学館	
期間: 令和7年9月24日～11月10日	対象: 学科担当	
内容: 診療報酬算定・関連法規		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 令和7年度キックオフ教職員研修会	連携企業等: 株式会社SNOPPI creation	
期間: 令和7年4月30日	対象: 全教職員	
内容: チームとして新体制教職員間のコミュニケーション機会と学生指導や連携体制などの共有		
研修名: 令和7年度指導力向上マナー研修会	連携企業等: 株式会社舍鐘	
期間: 令和7年7月30日	対象: 全教職員	
内容: アサーティブコミュニケーションについて		
研修名: スクールハラスメント研修	連携企業等: 合同会社JEIT	
期間: 令和8年2月27日	対象: 全教職員	
内容: 学生との適切な距離感を保ちつつ、信頼関係を築くための教育的関わり方を学ぶ		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 診療報酬改定セミナー	連携企業等: 独立行政法人福祉医療機構	
期間: 令和8年8月	対象: 学科担当	
内容: 令和8年度の診療報酬改定について		
研修名: 医事コンピュータ技能検定試験 研修会	連携企業等: 一般社団法人医療秘書教育全国協議会	
期間: 令和8年10月	対象: 学科担当	
内容: 医事コンピュータ技能検定の実技演習と指導法について		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 生成AI「UserLocalChatAI」研修会	連携企業等: 株式会社ユーザローカル	
期間: 令和8年7月29日	対象: 全教職員	
内容: デジタルトランスフォーメーションを推進し、教育の質向上を図るAIツールの利用方法		
研修名: 次世代リーダー研修(学校・学科運営等)	連携企業等: マイナビ	
期間: 令和8年8月21日・令和8年12月21日	対象: 次世代リーダー	
内容: 次世代の管理職層を育成し、学校・学科運営を通して教員の質向上を目指す		
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係		
(1)学校関係者評価の基本方針		
本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、翌年度以降の目標設定や具体的取り組みに反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを基本方針に定め、2つの目的を掲げ実施している。		
①本校の教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表する。また、このことにより、本校の組織的・継続的な改善を図ること。		
②自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価により、適切な説明責任を果たすとともに、学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと学校との連携協力による特色ある学校づくりを進めること。		

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準(1) 教育理念、目標
(2)学校運営	基準(7) 学校運営
(3)教育活動	基準(2) 教育活動
(4)学修成果	基準(3) 教育成果
(5)学生支援	基準(4) 学生支援
(6)教育環境	基準(5) 教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準(6) 学生の募集と受け入れ
(8)財務	基準(7) 財務
(9)法令等の遵守	基準(7) 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準(8) 社会貢献
(11)国際交流	基準(8) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

施設設備の充実と学生・就職支援での決め細やかな対応を可能とする体制づくりについては現状の維持向上のための取り組みについて賛同をいただいている。教育、就職、生活支援等における質の維持・向上に努めた。シラバスについても、授業内で活用し学生への周知を促すようご意見をいただいたため、教育内容・指導方法向上に努めていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
塩谷 剛弘	(株)アイティエス	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	卒業生
白鳥 達也	鈴与システムテクノロジー(株)	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
蜂屋 雅基	(株)エイエイピー	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
松尾 卓明	(株)松尾鉄工所	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
清水 幸男	医療法人社団チームHSK	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
佐藤 弘卓	静岡県立科学技術高等学校	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	地域
柏木 博州	ライフプラザパートナーズ(株)	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	地域
近藤 直子	社会福祉法人静岡慈恵会 春日保育園	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
大塚 順平	(株)ORENDA WORLD	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
遠藤 正人	(株)杜建築設計事務所	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
伊沢 水木	静岡産業技術専門学校 後援会	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/03_20262025学校関係者評

公表時期: 令和8年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

産業構造や労働環境、さらには職業としての役割が大きく変化し続ける中であって、本校がその教育理念、目的・目標、および教育活動や組織概要、特徴的な教育内容や学校が抱えている課題などを、社会に対して正確かつ積極的に伝えることが必要であり、そのために広く学校の情報を公開することを基本的な方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	設置コース、専門課程、就業年数、募集定員、学習時間数、入学者数、
(3)教職員	教職員数、組織図、研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備、学校行事、各種コンテスト、大学との連携プロジェクト、選択
(6)学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8)学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ(受入学科、入学選考方法、出願資格)
(11)その他	その他の教育活動(付帯授業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/01_2026学校情報.pdf

公表時期: 令和8年6月30日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 医療事務科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1		○		コミュニケーション活動Ⅰ	遠足などの活動のほか病院見学などや、始業式、終業式など通常の科目の学習を越えた範囲のさまざまな学習活動を行う。	1通	60	1		○		○		○		
2		○		コミュニケーション活動Ⅱ	遠足などの校外での集団行動や始業式、終業式などの通常の科目の学習を越えた範囲のさまざまな学習活動を行う。	2通	90	1		○		○		○		
3		○		キャリアデザインⅠ	就職を意識し、将来就きたいと考えている仕事について考えるための情報収集を行う。	1通	30	1	○			○			○	
4		○		キャリアデザインⅡ	社会人としての知識・マナーを身に付け、厳しい就職戦線を勝ち抜くための準備を目標とする。履歴書作成や面接練習なども実施する。	2通	30	1	○			○		○		
5	○			ビジネス教養Ⅰ	社会人としての知識とビジネスマナーを身につけ、就職活動への意識を高める。秘書検定2級合格を目標に学習する。	1通	120	4	○	△		○		○	○	
6	○			ビジネス教養Ⅱ	接遇の基本を理解し、社会人として必要な正しい言葉遣いや立ち居振る舞いを身に付ける。	2通	30	1		○		○		○	○	
7	○			コミュニケーションマナー	自分自身を客観的に見つめ直し、自己理解を図る。コミュニケーションの必要性を理解し、柔軟性を持った他者との関わり方について理解を深める。	1通	30	1		○		○			○	
8	○			栄養学	栄養学の基礎を学び、症状に合わせた献立が考えられる力を身に付ける。調理実習を実施する。	1前	30	2	○			○			○	
9	○			アロマテラピー	心と健康のバランスを保つためにも有効なアロマテラピーの知識を身につけ、それぞれの職場における職場環境などに配慮し対応できる知識を身につける。	1通	30	1		○		○		○		
10	○			カラー基礎	カラーに関する基礎知識を学び、ビジネスの場面に合った色を理解する。多様な色覚に配慮し、情報が正しく伝わるようデザインする知識を身につける。	1通	30	2		○		○			○	
11	○			アプリケーションⅠ	ワープロ・表計算ソフト等の応用的技術を身に付け演習を行う。検定試験対策を行う。	1通	60	2		○		○		○		
12	○			アプリケーションⅡ	WindowsやOfficeを使いこなし、文字・記号・画像の入力、編集、加工などを行い、その結果、ビジネスに役立つ文書を作成する技術を習得する。	2通	90	3		○		○		○		

13	○		受付対応・患者接遇	看護や介護などケアの現場において、目的や状況に応じて適切に表現するための言葉や知識を理解する。また必要とされるコミュニケーション能力を身に付ける。	2前	30	1		○		○		○		
14	○		メディカル英会話	外国人が来院した際に窓口で必要となるような表現や基本的表現について学習する。	1前	30	1		○		○			○	
15	○		医療保険制度・関連法規	医療事務に必要な基礎知識を学ぶ。医療保険の仕組みから保険請求のための関連法規の基礎を習得する。	1通	30	2	○			○			○	
16	○		医療概論・医療用語	病院組織や医療現場に特有な医療・医学や医療事務の基礎的知識を学習し、医者や看護師が行う医療行為を事務的に補助するための知識を習得する。	1通	30	2	○			○			○	
17	○		病院管理	医療の質と保証の概要、歴史や医療の評価方法について学習する。	1通	30	2	○			○			○	
18	○		基礎医学	基本的な医学知識、そのなかでも解剖生理学、からだの仕組みがどうなっているのかを理解する。	1通	30	2	○			○			○	
19	○		検査・薬理学	臨床検査の検査内容や特徴を理解し、薬理の作用・副作用、適応となる疾患における概要を学習する。	1通	30	2	○			○			○	
20	○		母子保健法	妊娠から産後（新生児）までの必要な栄養や環境などの知識を身に付ける。子どもがかかりやすい病気や起こりうる事故の対処法など医療機関での対応の仕方を学ぶ。	1通	30	2	○			○			○	
21	○		感染症学	臨床における主な感染症とその診断方法、感染症への対策について基本的知識を習得する。	1通	30	2	○			○			○	
22	○		診療報酬請求事務Ⅰ	保険請求のための診療報酬、各診療料の通則等基本的知識を身に付ける。外来診療のレセプト作成ができる技量を習得する。	1通	120	4	○			○			○	○
23	○		診療報酬請求事務Ⅱ	1年次より複雑な各診療料の加算や通則等の知識を身に付ける。入院・診療のレセプト作成ができる技量を習得する。	2通	120	4	○			○			○	○
24	○		検定対策Ⅰ	1年次に取得予定である各種検定試験の対策を実施する。	1通	30	1		○		○			○	
25	○		検定対策Ⅱ	2年次に取得予定である各種検定試験の対策を実施する。	2通	90	3		○		○			○	○
26	○		情報基礎	国家資格「ITパスポート試験」取得のため、コンピュータシステムや企業活動、経営の基礎知識を身に付ける。	1後	60	4	○			○			○	○

27	○		医 事 コ ン ピュータ	診療行為から保険請求の入力までの医事コ ンピュータの操作方法を習得する。	1 通	60	2		○		○		○						
28	○		電子カルテ	電子化されたカルテの入力から管理の方法 について、操作方法を習得する。	2 前	30	1		○		○		○						
29	○		ITパスポート	社会人として必要なコンピュータスキルを 学習し、国家資格「ITパスポート試験」の 合格に向けた対策授業を実施する。	2 通	180	6	○			○		○		○				
30	○		医師事務 作業補助	医療事務作業補助業務の従事者として必要 な医療文書の作成、医学・薬学・医療に関 する法律・法令等の知識と技能の習得を目 指す。	2 通	90	3	○			○						○		
31	○		調剤報酬	調剤保険薬局に必要な、調剤報酬請求事務 等の知識と調剤報酬請求書の作成を学習す る。処方箋の取り扱いや、薬の説明などを 実践的に学習する。	1 後	30	1	○			○						○		
32	○		救命救急法	日常生活における事故防止、手当の基本、 人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用 いた除細動、止血の仕方など、搬送、災害 時の心得などについての知識と技術を習得 する。	1 前	30	1		○		○							○	
33	○		介護基礎	身体の不自由な人や高齢者に対する介助・ 介護方法で求められる技能を習得する。	1 後	60	2	△	○				○				○		
34	○		介護報酬	介護サービスの内容を介護保険制度に基づ き、請求に必要な事務処理「介護報酬請求 書」を作成する知識を習得する。	1 後	30	1	○			○				○				
35	○		実習指導	実習先の選択から、現場で求められる技能 を含めた事前準備について、また、その経 験を生かし今後の学習についてを研究す る。	2 通	60	4	○			○				○				
36	○		医療機関実習	医療機関の協力を得て、これからの医療人 を育成することを目的に実施する。病院の 実務を幅広く体験し、医療人としての心構 えを養う。	2 前	90	3				○			○		○			○
37	○		レセプト点 検・DPC	保険点数の算定ルール、医療行為と病名の 整合性を理解する。診断分類群に基づきDPC 制度での入院料の算定を学習する。	2 通	30	1	○			○				○				
38	○		卒業研究	2年間の学習成果をまとめるために、グルー プ毎に最新医療動向などについて調査・研 究を行う。まとめた成果の発表会を実施す る。	2 後	60	4		○				○				○		
合計					38	科目	2070 単位（単位時間）												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： (1) 修業年限以上在籍し、必修科目の修得かつ校長が定める単位数以上を修得した者 (2) 査定日現在で学納金に未納がないこと		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修科目および選択科目 (留意事項)		1 学期の授業期間	22 週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

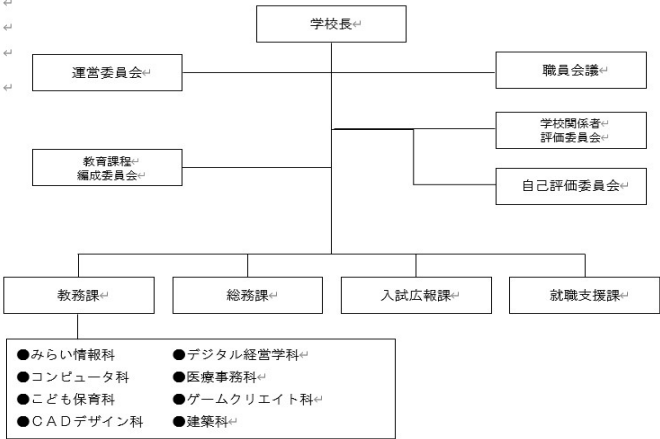
職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
静岡産業技術専門学校		昭和51年3月30日		松本 文晴		〒 420-8537 (住所) 静岡県静岡市葵区宮前町110-11 (電話) 054-261-8222		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人静岡理工科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-8538 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 M20ビル13F (電話) 054-204-2490		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程		こども保育科		令和2(2020)年度		令和6(2024)年度	
学科の目的		保育士及び幼稚園教諭二種の資格取得を目指す。 また、その資格を持って現場で即戦力として活用できる技術・能力・視野と感性を養い、自分で考え行動できる保育者の育成を目的とする。						
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)		本校(静岡産業技術専門学校)に在籍しながら近畿大学九州短期大学を併修することで、保育士及び幼稚園教諭二種の資格取得を目指す。 資格を取得することで卒業後の分野については、保育・教育分野にて活躍することを目指す。						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		単位時間	1,765 単位時間	300 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		123 単位		58 単位	59 単位	10 単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留學生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)	中退率			
60 人	63 人		0 人	0 %	0 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		20 人					
	■就職希望者数(D)		20 人					
	■就職者数(E)		20 人					
	■地元就職者数(F)		20 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		100 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	(令和 7 年度卒業生に関する令和 8 年 5 月 1 日時点の情報)							
■主な就職先、業界等								
(令和7年度卒業生)								
(学)千代学園 みやじま幼稚園、(学)寶城学園小川幼稚園、(福)静岡隣人会 静岡隣人会保育園、(学)島田中央学園 島田中央幼稚園、(学)島田中央学園みどり認定こども園、(福)ゆりかご福祉会 ゆりかご保育園、(学)みのり学園 認定こども園みのり幼稚園、(学)藤原学園 日本平幼稚園、(学)新聞杉の子学園								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無					
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	https://www.sangi.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		単位時間					
	うち必修授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間					
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数		127 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		10 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		5 単位						
うち必修単位数		123 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		10 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		5 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)			0 人		
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)			3 人		
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)			人		
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)			人		
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)			人		
	計					3 人		
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					2 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
国土交通省の建築士試験および建築施工管理技術検定試験の合格を目指す教育カリキュラム・教育時間を十分に確保し、学科の育成目標である建築技術者としての基礎知識・技術を習得した上で、業界で採用されている設計手法およびコンピュータ活用技術、施工法を、実践的かつ専門的に指導可能な企業を選定している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
保育業界及び企業ニーズを教育に反映させるため、学校組織内における教育課程編成委員会等の位置付けを「静岡産業技術専門学校 教育課程編成委員会の位置付けに係わる規程」として、またその運営を「静岡産業技術専門学校 教育課程編成委員会等の規則」として規定しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制としている。具体的には、教育課程編成委員会の意見を運営委員会で審議し、校長の許可を経て決定する。また、教育課程編成委員会は以下の図のように校長の下に設置されている。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
松本 幸真	静岡地区私立幼稚園協会研修委員会委員	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	①
清水 正恵	株式会社CONFIA	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	③
近藤 直子	春日保育園	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	③
松本 文晴	静岡産業技術専門学校 校長	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	—
横山 純	静岡産業技術専門学校 教務課長	令和8年4月1日～令和9年1月31日(1年)	—
榛葉 幸子	静岡産業技術専門学校 こども保育学科長	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	—
吉村 香央里	静岡産業技術専門学校 こども保育科教諭	令和8年2月1日～令和9年1月31日(1年)	—
			—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (8月、3月)
(開催日時(実績))
第1回 令和7年8月 7日 10:00～12:00
第2回 令和8年3月17日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
保育現場でのICT活用について話題が上がった。
日誌等、保育の記録をタブレットやスマートフォンで行い、現場での報連相・ヒヤリハット等情報共有手段として使用している。保育者だけでなく、各クラスにiPadがあり、行事への取り組みなど日常的に子どもたちも保育の中で活用している。また、保育参観では子どもの様子をライブ配信したり、保護者連絡をLINEで行うなど子どもと大人を繋げるツールとして園でのICT化が進んでいる状況を教えていただく。保育者離れが問題となっているが、ICTを取り入れることで負担軽減を図ると共に、手書きとして残したいものとのバランスや取り入れ方を模索している様子をお伝えいただく。
学校と実習施設との交流について、他校のやり方を教えていただく。実習について本校では書面での説明のみであるが、他校では事前にシンポジウムを取り入れている学校もあるとのことなので、今後本校でも検討していく必要がある。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
保育・教育実習に向けて、机上では学べない実践的な内容にするため、講師ならびに見学先の選定をする。
また、校内での授業・演習にあたり、連携団体から課題を提示し、講師による年間を通じた指導や学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・業界団体を選定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
学内での「保育特別講座」・学外での「現場研修」をバランスよく取り入れる。
学内では、講義形式にて業界の現状などを主の内容とする。学外では、こどもと積極的に接することを目的にオリエンテーション・見学実習・振り返りまで行う。
受け入れ先施設とは、事前に授業方針および内容について打合せし、学内・学外どちらの学生の様子も見えていただき、本校教員とともに評価も願う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
交流ゼミⅠ	技術指導	保育特別講座を開催し、保育・施設・教育分野への興味を抱き、自ら進んで保育技術を学ぶ。また、実習時に使える教科や遊びなどを多く学習する。	株式会社COMFIA

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
「静岡産業技術専門学校 職員研修規定」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識・技術の向上を図るための「教職員研修」を、企業等及び研修機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	保育セミナー2025	連携企業等:	東京都文化センター大和田
期間:	2025/9/15(月)	対象:	こども保育科教員
内容:	保育者とみんなの「学びの時間」		

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容:			

②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名： 令和7年度キックオフ教職員研修会	連携企業等：株式会社SNOPPI creation
期間： 令和7年4月30日	対象：全教職員
内容： チームとして新体制教職員間のコミュニケーション機会と学生指導や連携体制などの共有	
研修名： 令和7年度指導力向上マナー研修会	連携企業等：株式会社舎鐘
期間： 令和7年7月30日	対象：全教職員
内容： アサーティブコミュニケーションについて	
研修名： スクールハラスメント研修	連携企業等：合同会社JEIT
期間： 令和8年2月27日	対象：全教職員
内容： 学生との適切な距離感を保ちつつ、信頼関係を築くための教育的関わり方を学ぶ	
(3)研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名： 令和8年度全国保育士養成セミナー	連携企業等：グランキューブ大阪
期間： 令和8年8月26日(水)～27日(木)	対象：こども保育科教員
内容： 保育士のサステナビリティ ― 養成の灯を絶やさない ―	
研修名：	連携企業等：
期間：	対象：
内容：	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名： 生成AI「UserLocalChatAI」研修会	連携企業等：株式会社ユーザローカル
期間： 令和8年7月29日	対象：全教職員
内容： デジタルトランスフォーメーションを推進し、教育の質向上を図るAIツールの利用方法	
研修名： 次世代リーダー研修(学校・学科運営等)	連携企業等：マイナビ
期間： 令和8年8月21日・令和8年12月21日	対象：次世代リーダー
内容： 次世代の管理職層を育成し、学校・学科運営を通して教員の質向上を目指す	
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1)学校関係者評価の基本方針 本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、翌年度以降の目標設定や具体的取り組みに反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを基本方針に定め、2つの目的を掲げ実施している。 ①本校の教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表する。また、このことにより、本校の組織的・継続的な改善を図ること。 ②自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価により、適切な説明責任を果たすとともに、学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと学校との連携協力による特色ある学校づくりを進めること。	
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準(1) 教育理念、目標
(2)学校運営	基準(7) 学校運営
(3)教育活動	基準(2) 教育活動
(4)学修成果	基準(3) 教育成果
(5)学生支援	基準(4) 学生支援
(6)教育環境	基準(5) 教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準(6) 学生の募集と受け入れ
(8)財務	基準(7) 財務
(9)法令等の遵守	基準(7) 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準(8) 社会貢献
(11)国際交流	基準(8) 国際交流
※(10)及び(11)については任意記載。	

(3)学校関係者評価結果の活用状況
施設設備の充実と学生・就職支援での決め細やかな対応を可能とする体制づくりについては現状の維持向上のための取り組みについて賛同をいただいている。教育、就職、生活支援等における質の維持・向上に努めた。シラバスについても、授業内で活用し学生への周知を促すようご意見をいただいたため、教育内容・指導方法向上に努めていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
塩谷 剛弘	(株)アイティエス	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	卒業生
白鳥 達也	鈴与システムテクノロジー(株)	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
蜂屋 雅基	(株)エイエイピー	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
松尾 卓明	(株)松尾鉄工所	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
清水 幸男	医療法人社団チームHSK	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
佐藤 弘卓	静岡県立科学技術高等学校	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	地域
柏木 博州	ライフプラザパートナーズ(株)	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	地域
近藤 直子	社会福祉法人静岡慈恵会 春日保育園	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
大塚 順平	(株)ORENDA WORLD	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
遠藤 正人	(株)杜建築設計事務所	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
伊沢 水木	静岡産業技術専門学校 後援会	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/03_20262025学校関係者評

公表時期: 令和8年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

産業構造や労働環境、さらには職業としての役割が大きく変化し続ける中において、本校がその教育理念、目的・目標、および教育活動や組織概要、特徴的な教育内容や学校が抱えている課題などを、社会に対して正確かつ積極的に伝えることが必要であり、そのために広く学校の情報を公開することを基本的な方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	設置コース、専門課程、就業年数、募集定員、学習時間数、入学者数、
(3)教職員	教職員数、組織図、研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備、学校行事、各種コンテスト、大学との連携プロジェクト、選択
(6)学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8)学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ(受入学科、入学選考方法、出願資格)
(11)その他	その他の教育活動(付常授業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.sangi.ac.jp/sangicms/wp-content/uploads/2026/06/01_2026学校情報.pdf

公表時期: 令和8年6月30日

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こども保育科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1		○		コミュニケーション活動Ⅰ	入学時のオリエンテーション、遠足、保育キャリア講座など、学校環境への適応と保育分野への理解を深める。	1通	60	1		○		○	○	○		
2		○		コミュニケーション活動Ⅱ	遠足や各実習報告会を行い、より実践的なコミュニケーションスキルを高める。	2通	60	1		○		○	○	○		
3		○		コミュニケーション活動Ⅲ	より実践的な保育特別講座を実施し、社会人になることを意識した技術の習得をする。	3通	60	1		○		○	○	○		
4		○		キャリア講座	社会人としての知識とマナーを身につけ、実習やボランティアなどで役立てる。	2通	30	1		○		○			○	
5	○			ビジネスマナー	身につけた知識・技術をもとに、ビジネスマナー実務検定試験の取得に繋げる。	3通	30	1		○		○		○		
6	○			情報リテラシーⅠ	パソコンの導入から操作方法と利用技術を実践的に学ぶ。	1前	30	1	△	○		○		○		
7	○			情報リテラシーⅡ	パソコンの実践的な利用技術を学び、資格取得を目指す。	2前	30	1	△	○		○		○		

8	○			情報リテラシーⅢ	パソコンが実社会でどのように利用されているかを学び、就職後も役立つ活用方法を学ぶ。	3通	60	2	△	○		○			○	
9	○			地域連携	近隣の施設・子育て支援センター・イベントなどでの見学・ボランティアを実施し、その学びを報告会として学生同士で情報共有する。	1通	30	2	△	○		○	○	○		○
10	○			文章表現	保育現場に必要な文章力を身に付ける。例えば、保護者への連絡帳・園だより・保育記録・研修レポートなど。また、単位取得に必要なレポートの書き方を学ぶ。	1通	30	2	○			○		○		
11	○			公務員試験対策講座Ⅰ	公務員試験の概要を調査し、自分に合った進路選びに役立てる。SPI試験問題を中心に対策をする。	2通	60	2	○			○		○		
12	○			公務員試験対策講座Ⅱ	受験のための資料作成・対策問題を実施する。	3通	30	1	○			○		○		
13	○			英会話Ⅰ	子どもや保護者とコミュニケーションがとれるよう基本的な英会話や、表現の仕方を学ぶ。また、基本的な英文法を理解する。	1後	15	1	○	△		○			○	
14	○			健康科学	健康や体力に関する知識や関心を高め、合理的な運動実践が習慣化するための方策を考える。	1後	15	1	○	△		○			○	
15	○			情報処理入門Ⅰ	コンピュータの歴史やハードウェアの仕組みについて学ぶ。また、保育分野でのICTの活用について学ぶ。	1前	15	1	○	△		○		○		

16	○			日本国憲法	日本国憲法の枠組みを体系的に理解しながら、憲法が求めている理念とは何か、現代社会との間にどのようなギャップがあるかを学習する。	1 前	30	2	○			○			○	
17	○			幼児の心理学	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。	1 後	15	1	○			○			○	
18	○			教育原理	教育の本質・意義・機能に関する理論や知識を習得し、現代社会における教育の諸課題について考察する力を身に付ける。また、幼児期の教育の基本原則とその特徴を理解する。	1 後	30	2	○			○			○	
19	○			造形表現 (指導法)	幼児の造形（絵画や粘土・工作）表現様式を発達段階を追って学ぶ。自らも作成しながら、指導法を身につける。	1 前	15	1	○	△		○			○	
20	○			幼児と言葉	人間にとっての言葉（言語）の役割・言語獲得の理論を理解する。 子どもの言葉を育む適切な環境について理解し、保育者としての子どもとの関わり方を身につけ実践する。	1 通	15	1	○			○			○	
21	○			幼児と人間関係	領域「人間関係」に関する保育・教育内容及び指導に関する知識・技術を習得する。 こどもの発達を領域「人間関係」の観点で捉え、子どもの理解を深める。	1 通	15	1	○			○		○		
22	○			幼児と環境	幼児教育の基本及び領域「環境」の狙いと内容を理解する。「環境とのかかわる力」の発達について理解する。自然環境や社会環境などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもの自然とのかかわりを深める保育を実践的に指導できるようにする。	1 前	15	1	○			○			○	
23	○			社会福祉	社会福祉に関する基本的知識を身に付けるとともに、我が国の社会保障における仕組みや特徴を理解する。	1 通	30	2	○			○			○	

24	○		子ども家庭福祉	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。こどもの人権擁護について理解する。	2通	30	2	○			○		○	
25	○		保育原理	保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と保育の方法の基本、保育の思想と変遷について、基本的な内容を理解する。また、保育の現状と課題について考察する。	2前	30	2	○			○		○	
26	○		社会的養護Ⅰ	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。社会的養護の制度や実施体系等について理解する。	1前	30	2	○			○		○	
27	○		子ども家庭支援論	保育の専門性を活かした子ども家庭福祉の意義と基本について理解し、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について学ぶ。	2前	30	2	○			○		○	
28	○		幼児への特別な支援	特別支援教育に関する制度の仕組みや各障害のある幼児の発達や特性、保育者の支援方法について理解し、個別の指導計画及び教育支援計画の基礎について学ぶ。	2後	15	1	○			○		○	
29	○		子どもの食と栄養	子どもの発達・特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、乳幼児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食（保育所給食）、食育の重要性を理解する。	2後	15	1	○			○		○	
30	○		子どもの保健	子どもの保健の意義を理解し、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題や子どもの心身の正常な発育及び、発達段階の各期の特徴を学ぶ。	2前	30	2	○			○		○	
31	○		保育の心理学	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。乳児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。	2後	30	2	○			○		○	

32	○		子どもの家庭支援の心理学	心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係について発達の観点から理解し、子どもとその過程を包括的にとらえる視点を習得する。	2 後	30	2	○			○		○	
33	○		教育課程総論	幼稚園における教育課程、保育所における保育課程の編成と指導計画の作成の基本的な考え方・意義を理解し、計画、実践、省察・評価、改善の過程について学び実践できるようにする。	1 後	30	2	○			○		○	
34	○		教育方法論	教育の方法に関する理論的知識を習得し、乳幼児期の教育の方法に関する基本原理を理解する。また、実践力の向上を目指す。	1 前	30	2	○			○		○	
35	○		教職概論	教職・保育職の意義やその役割、職務内容などの基本的な理解を通して、現在の保育者に求められる資質や保育者としての社会の期待に応える為にどのような努力をすれば良いのかを考えていく。	1 前	30	2	○			○		○	
36	○		教育相談	現代社会で起きている様々な子育てに関する問題を知り、子どもの心の成長やつまずき、保護者への支援に関しての理解を深め、子どもや家庭への支援の基本を学ぶ。	2 後	30	2	○			○		○	
37	○		保育・教職実践演習	保育士・幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力を習得し保育者としての使命感と職務内容について理解する。	3 後	15	1	△	○		○		○	
38	○		児童文化	保育の質を向上させるために必要な児童文化財や遊びの実践を通して、専門的な知識を得る。また、保育者になってから適切な児童文化財を子どもに与え、実践的な指導ができることを目標とする。	1 後	15	1	○	△		○		○	
39	○		乳児保育 I	乳児の成長発達や発達課題、保育内容、保育実践の方法を学習し、知識と技能を身に着ける。また、保護者を支援する保育者としての役割や乳児保育の必要性について考える。	2 前	30	2	○			○		○	

40	○			音楽Ⅰ	保育者として、重要な音楽表現をするために音楽鑑賞・歌・楽器演奏・リズム遊びを身に付ける。また、楽譜読みに必要な音楽理論の基礎も学ぶ。	1通	90	3	△	○		○			○	
41	○			音楽Ⅱ	音楽Ⅰを基礎に、器楽の演奏技術を取得し、童謡の弾き歌いが出来る技術を身に付ける。また、童謡の伴奏に必要なコード進行を理解する。	2通	120	4	△	○		○			○	
42	○			音楽Ⅲ	クラス活動の中に音楽が取り入れられるよう、子どもたちの前での童謡の弾き歌いが出来る技術を身に付ける。より多くの季節の歌・童謡・わらべ歌を知り、教育活動に活かせる技術を身に付ける。	3通	90	3	△	○		○			○	
43	○			実習指導Ⅰ	保育士及び幼稚園教諭資格取得に向けて、実習の仕組みを理解する。また幼稚園・保育所の機能や内容・目的を理解し、実習やその手続きがスムーズに出来るようにする。	1通	60	2	△	○		○		○		
44	○			実習指導Ⅱ	2年次で行われる 保育実習・教育実習に向けて、日誌の書き方、指導計画の方法などを学ぶ。	2通	60	2	△	○		○		○		
45	○			実習指導Ⅲ	3年次で行われる 保育実習・施設実習・教育実習に向けて、理解を深める。また、責任実習などに向けた準備を行う。	3通	60	2	△	○		○		○		
46	○			リトミック	音楽を通して、身体的・感覚的・知的に優れた子どもたちの育成を目指し、その指導が出来るような技術を身につける。	3通	30	1	△	○		○			○	
47	○			制作演習Ⅰ	保育者として、必要な制作の知識を深める。具体的には、材料の特性・道具の正しい使い方・手入れの仕方などを含め、物の理解をする。	1通	30	1	△	○		○		○		

48	○			制作演習Ⅱ	部分実習で使える教材の作成。具体的には、ペープサート・シアターなどを制作し活用法を学ぶ。また、実際に子どもの前で使ってみて、反省などをクラスで共有する。	2 通	30	1	△	○		○		○	
49	○			制作演習Ⅲ	責任実習に向けて、必要な教材や保育園・幼稚園でよく使う壁面飾り等を調査し制作する。	3 通	60	2	△	○		○			○
50	○			絵本教育Ⅰ	絵本がいかにして誕生し、これまで絵本と人間がいかに関わってきたのかについて学ぶ。沢山の絵本に触れ、それぞれの絵本の特性について学び、絵本の選定が出来るようにする。	2 通	30	1	△	○		○			○
51	○			絵本教育Ⅱ	「なぜその絵本に魅力を感じるのか」「この絵本が子どもを引きつける要因とは何か」という点から絵本の持つ力を理解する力を養う。また、読み聞かせる上で必要となる配慮について考える。	3 通	60	2	△	○		○			○
52	○			自然教育	子どもの成長と自然の重要性について学ぶ。また、子ども達が園や身近な自然の中でどのように自然と関わり触れ合うことができるのか、保育者として自然や命の大切さをどのように伝えていくのか、実践を通して自身の考えを深めていく。	3 通	30	1	△	○		○			○
53	○			交流ゼミⅠ	特別講師によるセミナーを通じて、現在よく使われる教材や技術を学ぶ。また、積極的に関わり自己表現することで、保育者になることへのモチベーションを高める。	1 通	30	1	△	○		○		○	○
54	○			交流ゼミⅡ	他学年と交流し、教えたり教えられたりという中で知識を深める。また、自分から伝えることで自己理解を深める。	2 通	30	1	△	○		○		○	
55	○			交流ゼミⅢ	近隣の子どもたちやその保護者と関わることで、コミュニケーションスキルを高める。	3 通	30	1	△	○		○		○	

56	○			運動遊び	“遊び”から始まる日常の保育の展開や実践的指導力の向上を図り、さらに園内の行事プログラムの指導計画まで発展させる。また指導者の資質を理解し、実践力を身につける。	3通	30	1	△	○		○		○	
57	○			卒業研究	3年間の総括として、保育に関わることをテーマとし卒業研究を行い、論文にまとめプレゼンテーションを行う。	3通	60	2	△	○		○		○	○
58	○			英会話 I S	子どもや保護者とコミュニケーションがとれるよう基本的な英会話や、表現の仕方を学ぶ。また、基本的な英文法を理解する。	1	20	1	△	○		○		○	
59	○			生涯スポーツ S	生涯スポーツの在り方について学ぶと共に、実践を通してコミュニケーション力の大切さやスポーツの楽しさを追求する。	1	30	1		○		○		○	
60	○			情報処理入門 I S	コンピュータの歴史やハードウェアの仕組みについて学ぶ。また、保育分野でのICTの活用について学ぶ。	1	20	1	△	○		○		○	
61	○			幼児と音楽表現 S	発声法の基本と読譜力をつけると共に、子どもの歌のレパートリーを増やししながら、楽器演奏に必要な知識技術を学びアンサンブルの楽しさを学ぶ。	1	20	1	△	○		○		○	
62	○			音楽表現技術 S	ピアノ伴奏の編曲・移調法を学び、アンサンブルにおける楽器演奏に必要な知識や技術の習得と、合唱における発声法や音楽の表現方法を学ぶ。	2	20	1	△	○		○		○	
63	○			幼児と造形表現 S	幼児の造形（絵画や粘土・工作）表現様式を発達段階を追って学ぶ。自らも作成しながら、指導法を身につける。	2	20	1	△	○		○		○	

64	○			教育心理学 S	子どもの学び、記憶、思考、パーソナリティを理解するための基本的な知識の習得をし、保育や教育に生かす心理学の学びを深める。	1	20	1	○			○		○	
65	○			健康（指導法） S	子どもの身体発達の特性を知り、楽しく安全に遊ぶための方法、更に健康で安全に生活することの意識づけについて学ぶ。	1	20	1	△	○		○		○	
66	○			人間関係（指導法） S	「人間関係」に関する保育・教育内容及び指導に関する知識・技術を習得する。こどもの発達を「人間関係」の観点で捉え、子どもの理解を深める。	1	20	1	△	○		○		○	
67	○			幼児と健康 S	幼児期運動指針の要点や子どもにおける問題を理解する。幼児期に必要な運動プログラムを実践する。	2	20	1	○			○		○	
68	○			造形表現（指導法） S	造形の基礎となる、平面（絵画・デザイン）立体（積み木）の作品制作を通して基礎的な技術を学び、幼児の造形活動への理解を深める。	1	20	1	△	○		○		○	
69	○			音楽表現（指導法） S	幼児音楽が子供に果たす役割を理解し、「歌紙芝居」やボディパーカッションを用いて、リズムと言葉の面白さを感じながら表現する事や歌の指導力を学ぶ。	1	20	1	△	○		○		○	
70	○			環境（指導法） S	幼児教育の基本及び領域「環境」の狙いと内容を理解する。「環境とかかわる力」の発達について理解する。	1	20	1	△	○		○		○	
71	○			言葉（指導法） S	人間にとっての言葉（言語）の役割・言語獲得の理論を理解する。子どもの言葉を育む適切な環境について理解し、子どもとの関わり方を身につけ実践する。	1	20	1	△	○		○		○	

72	○			社会的養護Ⅱ S	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。社会的養護の制度や実施体系等について理解する。	2	20	1		○		○			○	
73	○			障がい児保育 S	障害児保育に関する基本的知識を身につけ、障害児保育における意義や障害児の特性を踏まえた保育や支援のポイントについて考える。	2	20	1	○			○			○	
74	○			子どもの食と栄養 S	乳幼児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食（保育所給食）、食育の重要性を理解する。	2	20	1	△	○		○			○	
75	○			子育て支援 S	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援を、その特性と展開を学ぶ。	2	20	1		○		○			○	
76	○			劇あそび（指導法） S	子どもの発達から劇あそびを捉え、子どもの立場に立った演習を通して、援助や配慮等、保育者の役割や劇あそびの工夫等を学ぶ。	1	20	1	△	○		○			○	
77	○			教育実習事前事後指導 S	幼稚園二種免許状取得に向けた教育実習が円滑かつ有意義に行われるよう、教育実習に関わった基礎的な理解の知識をを深めていく。	2	20	1	△	○		○			○	
78	○			保育内容総論 S	保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」の観点を理解する。	1	20	1		○		○			○	
79	○			教育実習① S	1週間の観察実習・参加実習・部分実習を主とする実習を行う	2	30	1				○		○	○	○

80	○			教育実習② S	3週間の指導実習を主とする実習を行う	3	90	3			○		○		○	○
81	○			保育・教職実践演習 S	実習の経験を基に子どもや保育への思いを再認識し、保育者として必要な資質能力の習得を再確認し、仲間との共有を図りながら意欲向上を図る。	3	20	1	△	○		○			○	
82	○			児童文化 S	保育の質を向上させるために必要な児童文化財や遊びの実践を通して、専門的な知識を得る。	1	20	1	△	○		○			○	
83	○			乳児保育Ⅱ S	乳児の成長発達や発達課題、保育内容、保育実践の方法を学習し、知識と技能を身に着ける。	2	20	1	△	○		○		○		
84	○			子どもの健康と安全 S	保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について学ぶ。子どもへの適切な対応について理解する。	3	20	1	○			○			○	
85	○			保育実習Ⅰ（保育所） S	保育所における1日の流れを学び、子どもへの理解を深めるため10日間の保育所での実習を行う。	2	60	2			○		○	○		○
86	○			保育実習Ⅰ（施設） S	養護と療育を経験することにより、これまでの学びが保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解し、自分なりの保育観や子ども観を深める。	3	60	2			○		○		○	○
87	○			保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所） S	指導計画案の作り方・実習記録の作成および、実習後にすべき事柄などを中心に具体的な事例に基づきながら行う。	2	20	1	△	○		○		○		

88	○			保育実習事前 事後指導Ⅰ (施設) S	施設実習前にすべき事柄・実習記録の作成及び、実習後にすべき事柄などを中心に具体的事例に基づき学習し理解を図る。	2	20	1	△	○		○		○	
89	○			保育実習Ⅱ S	保育実習Ⅰをふまえ、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践に努める。	3	60	2			○		○	○	○
90	○			保育実習事前 事後指導Ⅱ S	保育実習Ⅰ（保育所）での反省と課題に基づき、より実践的な内容を学習する。更に保育実習Ⅱの目的を明確にする。	3	20	1	△	○		○		○	
合計						95 科目			2940 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： (1) 修業年限以上在籍し、必修科目の修得かつ校長が定める単位数以上を修得した者 (2) 査定日現在で学納金に未納がないこと		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修科目および選択科目 (留意事項)		1 学期の授業期間	22 週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。